昭和七年

歴史寫眞

新年號

第三卷

滿洲事變特輯號

大正二年創刊
第二百二十四號



歴史寫眞第二百二十四號
昭和六年十二月二十九日印刷納本 大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和七年一月一日發行（毎月一回一日發行）

謹賀新年

内外多難の裡に昭和七年の新春を迎へ、各位愈々御健祥に亘らせられ候段、慶賀洵に此事に奉存候。降て弊會儀一同、御蔭様を以て無事越年致し、時局多事の折柄、益々其の機能を發揮して本來の使命を達成し、以て各位の御期待に副ひ奉るべく、一致協力一層の奮勵罷在候間、何卒本年も亦倍舊の御愛顧垂れ賜り度く偏に奉希上候

昭和七年元旦

頓首敬白

歴史寫眞會本部一同
全國支局支部員一同

新年勅題『曉鷄聲』



（黒川翠山作）



征途に上る勇士等

品川驛を出で發つ津輕の勇士等車窓に倚りて萬歳を絶叫す



滿洲事變特派寫眞

戰死者靈祠の假宮

靖國神社境内社務所前に於ける倉本少佐以下多戰死者の假宮

（其一）大興高地の勇戰



馬占山麾下の黑龍江軍は十一月四日午後白旗を揭げて降伏を裝ひつゝ日本軍を近づかしめたる後一齊に砲火を浴びせたので玆に彼我兩軍の間に猛烈なる戰鬪開始せられたが、敵は步騎兵合せて四千に餘り、大砲三十餘門の優勢なるを以て小數の兵力を以てする我軍は忽ち苦戰に陷り、大興附近の陣地に於て多數の死傷者を出し、翌五日の夜、步兵〇箇大隊が增援隊として來着したると共に勇氣百倍し、いよ／＼總攻擊を開始し翌六日午後に至り完全に敵を驅逐したが、その間二晝夜に亙る激戰は凄絕言語に絕するものがあつた。寫眞は大興高地に於て戰死したる我が兵士を葬りたる上に、彼が最後まで手にせし銃を墓標として立て、それに日章旗を飜したる悲しくも亦勇ましき光景である。

満洲事變寫眞（其二）涙の裡に戰友を葬る



十一月五日朝、馬占山軍は大興驛を中心に兩側に砲兵陣地を布き、多數の歩兵は東方高地の完備した掩蓋を有する塹壕内に潜み頗る頑强に抵抗した。是に對し我が混成第○旅團嫩江枝隊は小園江少佐の率ゐる○個大隊と、濱本聯隊本部とを是に對せしめ、砲兵の掩護射撃に依て攻撃を開始したが、同大隊の後方に突然馬軍の騎兵現はれ、我軍は包圍された形となり、大隊全滅の危機に瀕したる爲め多數の死傷者を出したのである。かくてその夜增援を得たる我軍は翌六日朝に至り一齊に攻撃を開始し、泰來に根據地を置く飛行隊も亦、是と策應して旺に爆撃を續けたので敵は忽ち潰亂、總崩れとなつた。寫眞は大興高地に戰死したる一勇卒の遺骸を葬りつつ涙の裡に擧手の禮をなせる我が兵士等である。



滿洲事變

（其一）

暴動化した天津市街

（右下）

支那軍同士の交戰より惹い
て我が軍との衝突を來した
る爲め我が臨時歩兵隊本
部となりたる大和公
園內日本倶樂部

（左上）

十月十一日拂曉天津の支那兵突然我が
租界に向ひ一齊射撃を開始したる爲め我
軍も自衛上直ちに是に應戰し交戰二時間に
亘りて遂に敵を沈默せしめた。寫眞は天津租
界を警備中の我軍である。





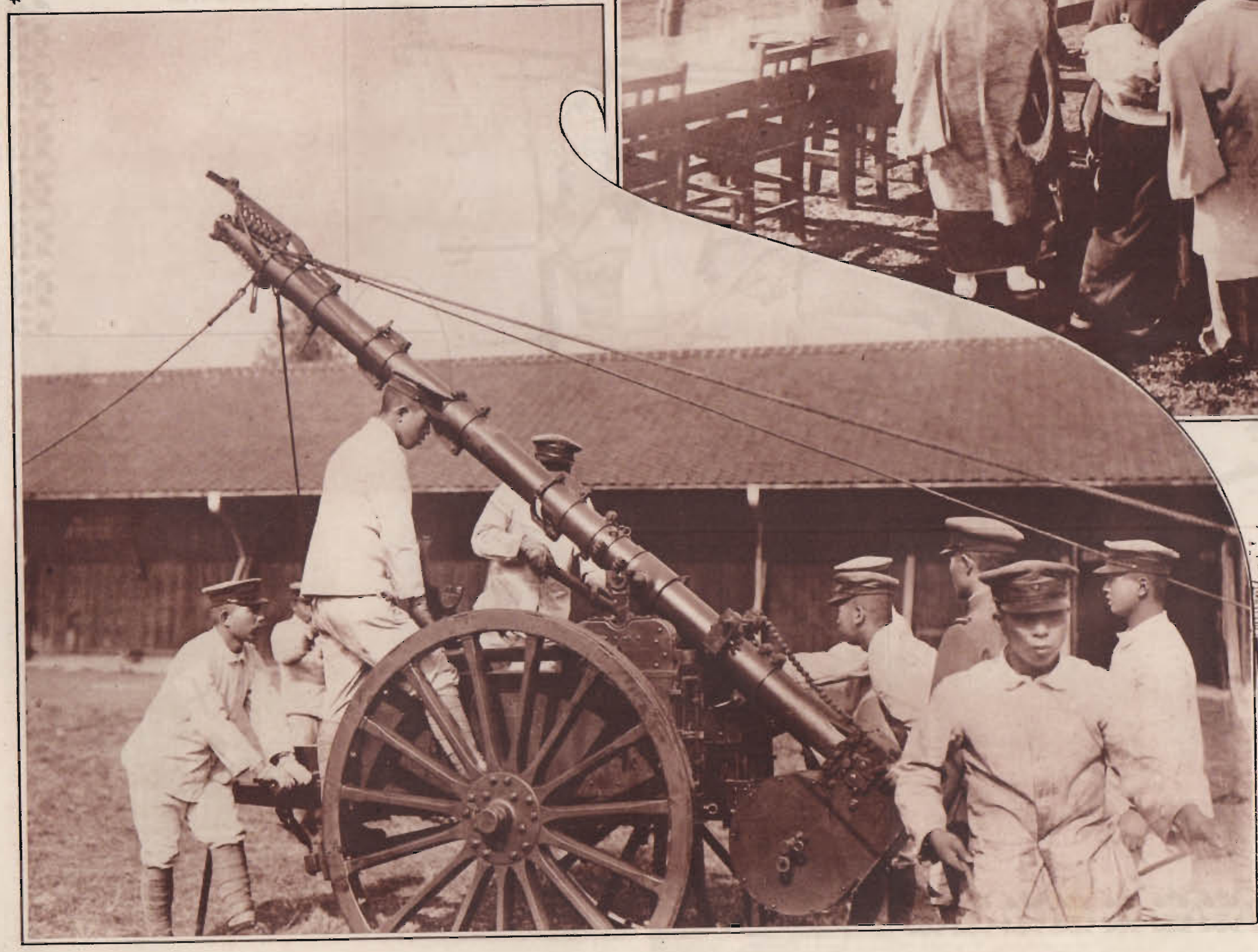
滿洲事變

（其二）飛行隊と電信隊の出動

（右上）今同の日支交戰に我が飛行機の威力遺憾なく發揮せられ敵に多大の損害を與へた。寫眞は十一月中旬太刀洗飛行第〇隊の八八式機が今や滿洲へ向つて出動せんとするところ。



（左下）十一月中旬滿洲派遣交代部隊として出動命令を受けたる東京中野電信隊に於ては即時出發準備に着手し、同月二十四日夜東京發、奉天に向つた。寫眞は出動準備の光景

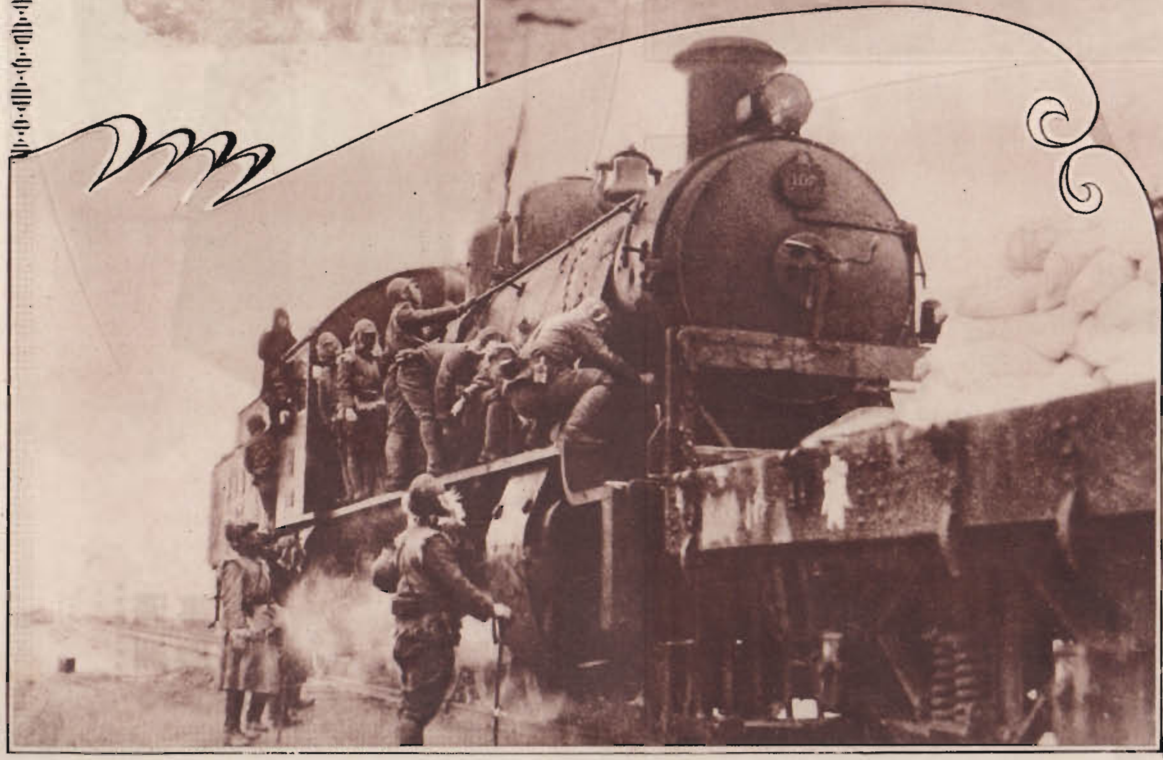


滿洲事變



（其三）負傷者の後送と馬軍機關車鹵獲

（右上）十一月四日午後二時、我軍は嫩江鐵橋北岸に於て馬占山軍の挑戰行動に依て戰闘を開始し、翌五日遂に敵陣地を占據した。寫眞は該戰闘に太股を撃たれたる畑軍曹を後送しつつあるところ。



（左下）十月下旬より初旬にかけ馬占山は歩兵約千五百名、大砲二十門追撃砲十二門騎兵五百名、衛隊千三百名其他總數五千名を嫩江畔大興附近に集結、四日に至り遂に我軍に挑戰したるが激戰の後脆くも敗退した。寫眞は我軍の鹵獲したる機關車

滿洲事變

（其四）

馬占山の動靜



（右）大敗戰の數日前チチハル黑龍江省政府公署前に於ける得意の馬占山



（左上）十一月十八日我軍の爲めに徹底的猛撃を加へられ全軍總崩れとなりたる黑龍江軍頭領馬占山が戰線視察の光景（左より二人目）



（同下）昂々溪附近に於ける黑龍江軍第二陣地の有樣で、是等の陣地も我軍の猛撃に遭ひ一たまりもなく壞滅した。







滿洲事變（其五）

濱松飛行隊の出動と弘前混成旅團の出發

（右上）

十一月十七日濱松飛行聯隊の本田少佐以下〇〇名は輕爆撃機〇臺に分乘、同地出發一路〇〇に向ひ出動、即日目的地に到着した。

（同下）

朝鮮師團と交替の爲め滿洲へ派遣せらるる弘前第〇師團混成第〇旅團は十一月十五日數萬の大衆に送られて出發した。

（左）

混成第〇旅團長鈴木少將、車窓より萬歳を叫ぶ

滿洲事變

（其六）負傷兵運搬トロツコと四洮線の我鐵道守備隊（右上）

十一月五日馬占山軍は歩騎合せて四千、大砲三十門の優勢にて我軍に挑戰
虹橋大興方面に於て大激戰あり我損害尠くなかつた。
寫眞は負傷兵をトロツコにて運ぶところ



（左下）滿鐵四平街より洮南方面に至る四洮線の沿道に支那敗殘兵及び馬賊の集團屢々出沒危害を加ふるに依り我守備隊出動して嚴重に警戒しつつある有樣。人物の背後遙かに鐵路の橫はるを見る



滿洲事變

（其七）大興高地の日章旗と占據地の我步哨



（右上）十一月五日より六日に亘る大興附近の大激戰はかの日露戰役に於ける旅順の攻擊戰にも劣らぬ大激戰であつた。寫眞は大興高地一番乘りの我が軍



（左下）大興附近の戰鬪に於て我軍は凡そ二十倍以上の大軍を向ふに廻して苦戰を續け、一時は全く敵の包圍を蒙り全滅の危機に瀕した。寫眞は敵の陣地を占據後我が步哨意氣揚々巡視の光景である。

滿洲事變

（其八）敵の死守せる塹壕と我步兵の曲射砲



（右上）露軍が馬占山軍に對して竊かに援助を與へ武器彈藥を供給しつつありたることは顯著なる事實で現に我が軍の占據せる敵の陣地には露國式の塹壕至るところに發見された

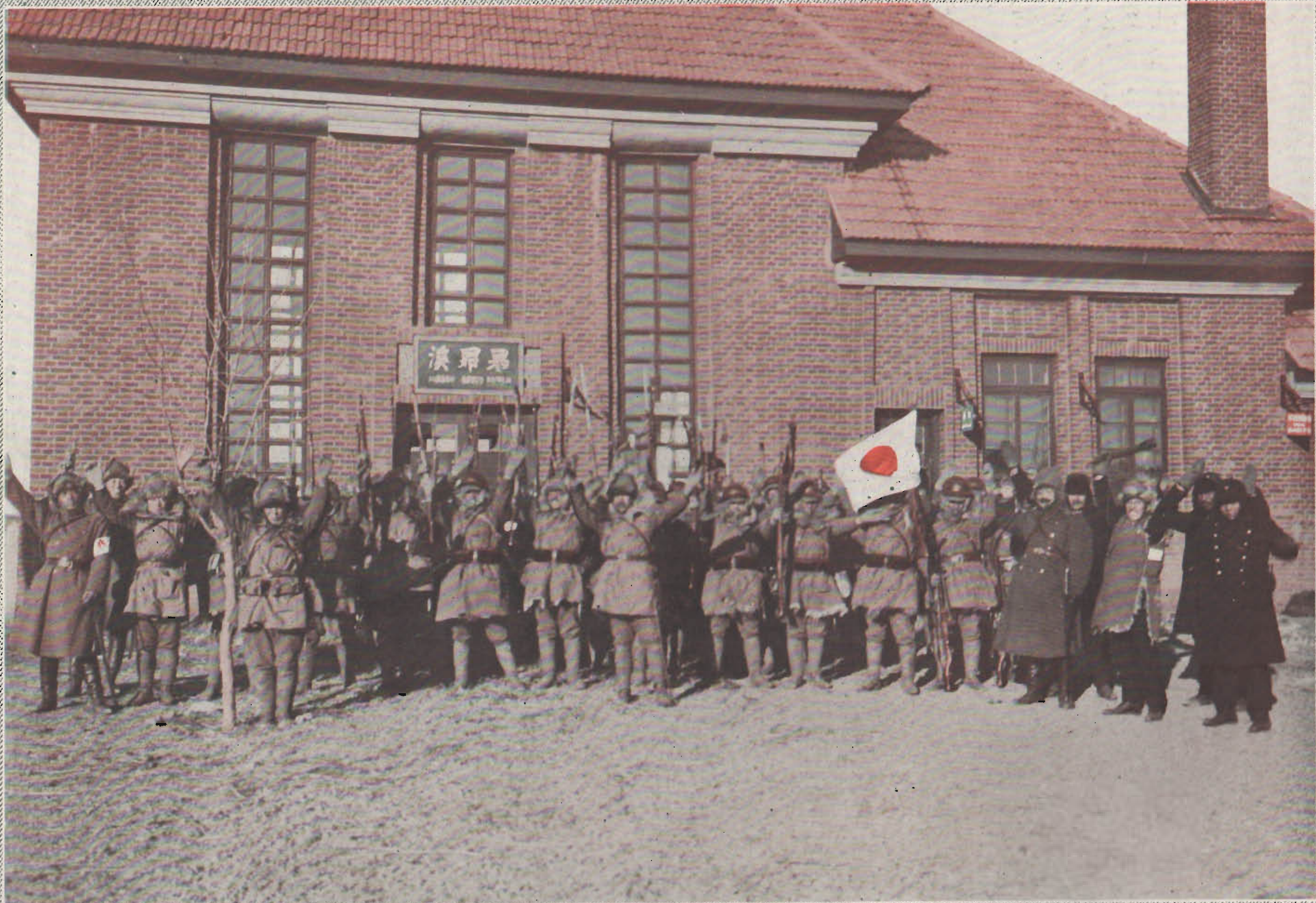


（左下）最近數年間に我が陸軍の新兵器は著しくその種類を加へ、近頃、豫後備軍人が召集を受け入隊して是等の新武器に逢ひ全くその用途を知らざるもの尠くないといふことである。寫眞も新兵器の一で滿洲軍の塹壕戰に使用されつつある步兵の曲射砲であるが、是は目標を目のあたりに見ず、隱れたる場所にありて敵への距離を測定し發射するものである





滿洲事變寫眞 ◆◆◆ （其三） 昂々溪驛の占領



黑龍江軍の統帥馬占山は十一月初旬大興附近の敗戰後、昂々溪及びその南方地區に巨大なる兵力を集中して、我が穩健妥當なる抗議を一蹴し各地の支那軍及び兵匪を利用し、事毎に我軍の行動を妨害し、遂に十一月十七日我軍に對し總攻擊を策し來つたので、我が部隊は自衛的見地より遂に蹶起し、同十八日俄然攻勢に轉ずると共に忽ち敵の大軍を擊破し、疾風の如き急追擊を以て同日午後一時先づ完全に昂々溪を占據し、引續き息をもつかせず急追して同日夕刻には**チヽハル**の停車場龍江驛を占領し、午後八時我軍は步武堂々**チヽハル**城に入城、城頭高く日章旗を掲揚した。寫眞は我が先頭部隊が昂々溪を占據し、驛前に於て萬歲を高唱しつつある光景である。

◆◆◆滿洲事變寫眞◆◆◆（其四）我が負傷兵の後送



大興附近の戰ひに於て最初我軍に挑戰したる馬占山麾下の黑龍江軍は、我に比し數十倍の大軍で、もと〳〵衆を恃んで敵對せるものであつたから、我軍は寡兵の上、不利なる陣地に在りたる爲め一時甚だ苦戰に陷り、その死傷者は戰闘第一日たる十一月四日が百二三十名、第二日即ち五日が十八名、第三日即ち六日が三十名に上り、その戰闘の猛烈なる日露戰爭當時旅順の戰ひもかくやと思はるるばかりであつた。然しながら此の烈しき難戰も、六日早朝續々增援隊の到着すると共に一擧に戰況を挽回し猛然攻勢に轉じたる爲め、敵は大興の北方及び東北方に向て總退却を開始し、午後我軍は完全に敵の第二陣地を占領した。寫眞は大興附近激戰の後、我が負傷兵を擔架に載せて後送せんとするところである。



■■ 滿洲事變特輯寫眞 ■■

四洮線を守備する我軍

馬賊來襲の急報に接し、
跳躍突擊に向ふ守備隊

満洲事變 ◆◆◆ 捕へられたる馬賊の首領



奉天其他の支那敗殘兵と馬賊とが至るところに横行して掠奪暴行を擅まにし我軍の行動を防害すること甚しいので、關東軍は是等の兵匪を討伐することに寧日なき有樣である、寫眞は高臺子方面に於て頑强にも我軍に抵抗し遂に捕へられたる馬賊の首領で、右は王、左は劉である。

滿洲事變

森獨立司令官と我通信隊の前進

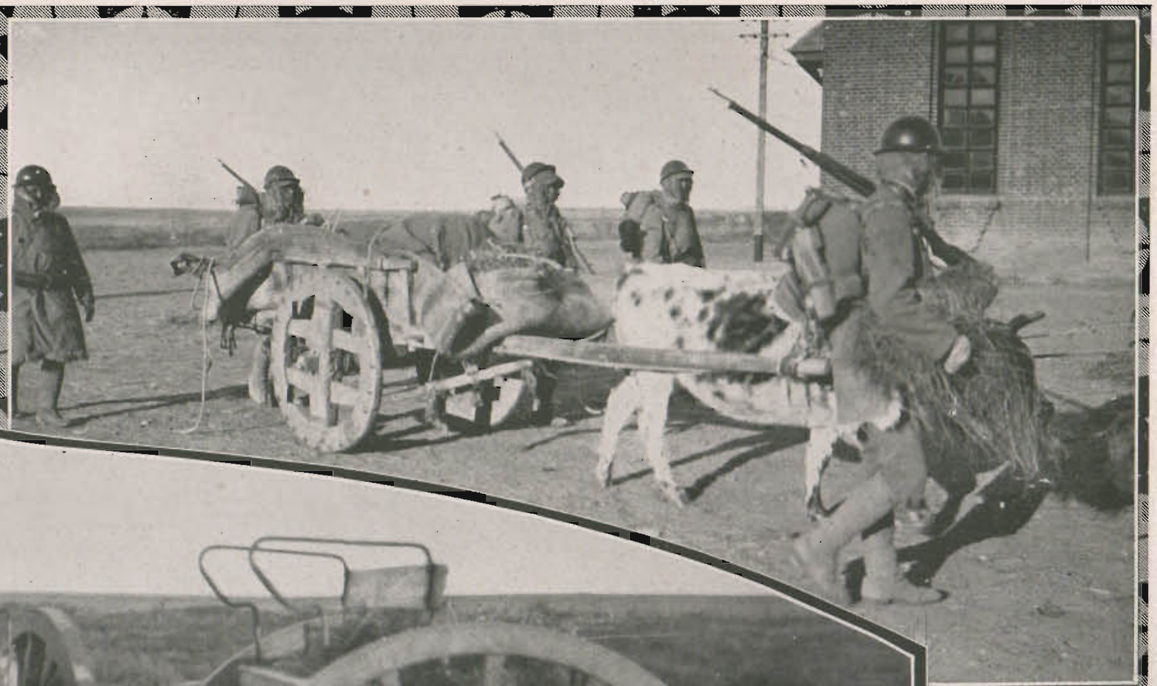




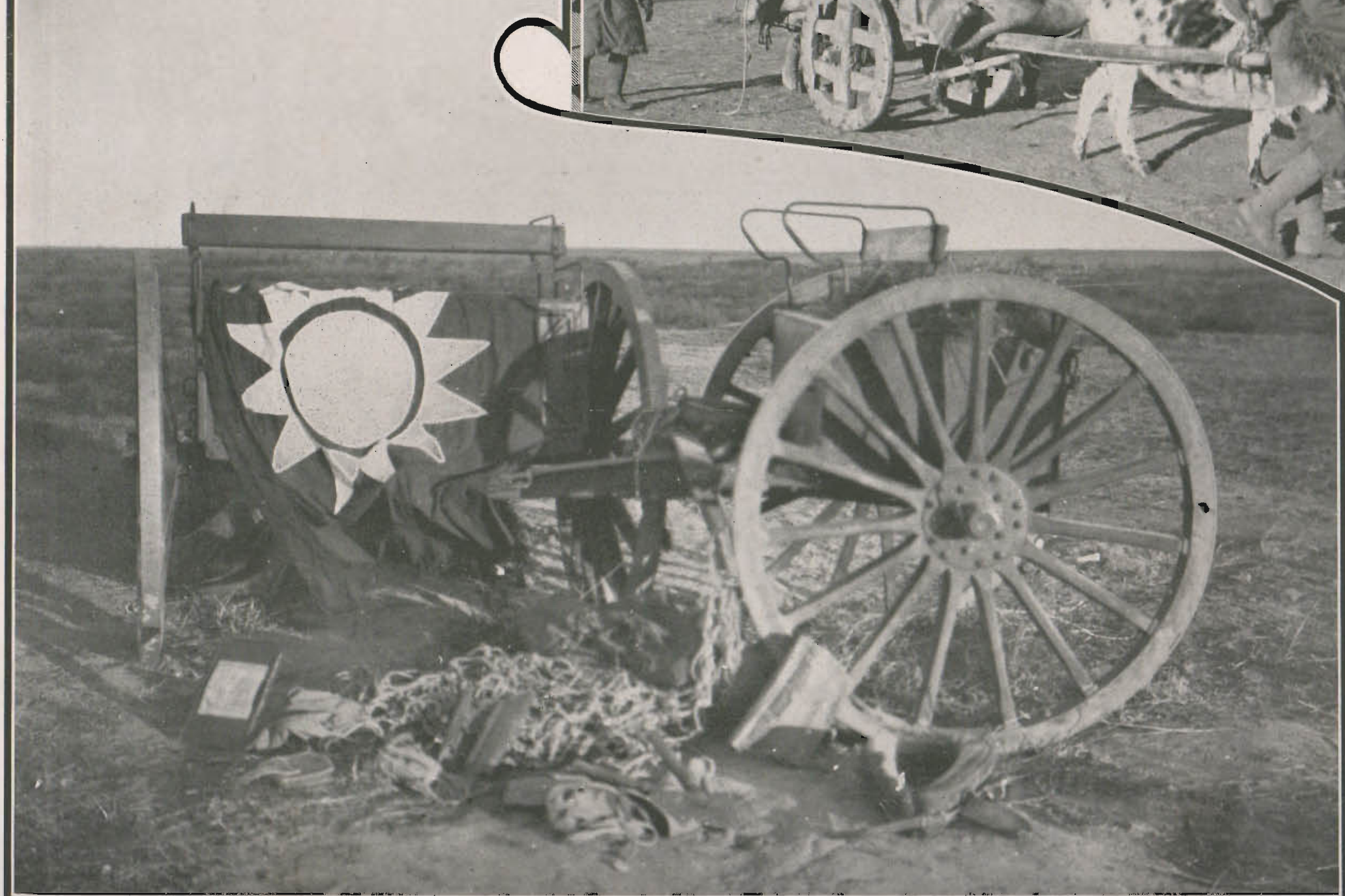
（右下）満洲各地に於ける兵匪馬賊の跳梁は益々猖獗を極めてゐるので我軍は是が討伐に全力を擧げてゐる。寫眞は湯崗子西方の馬賊討伐に向つた獨立守備隊司令部で右端双眼鏡を手にするは森司令官である。（左上）昂々溪の戰ひに丘陵の腹を匍匐して前進しつゝある我が通信隊

滿洲事變

我軍輸送部の活躍と
敵の遺棄せし彈藥車



（右上）零下三十度の酷寒と戰ひつつ祖國の爲めに一身を犠牲にして戰闘に從ふ我が將卒の艱苦は實に我等の想像だに及ばぬものがある。寫眞は滿洲特有の驢馬に糧秣を曳かせて一望際涯なき寒風の曠野を行く輸送部隊の涙ぐましい活躍振り。



（左下）昂々溪の戰ひに我軍の猛擊に遭ひ散を亂して遁走した支那軍の戰場に遺棄せし彈藥車と青天白日旗である。

◆◆◆ 滿洲事變 ◆◆◆ 我が裝甲列車の活躍



這次の滿洲事變に際しては、帝國陸軍が最近に於て考案製作したる數々の新兵器が使用された。玆に揭げた裝甲列車も始めて實戰に用ひられたものであるが、是は支那軍にも相當優秀なものが使用されてゐた。寫眞は洮昂線方面馬軍討伐に向ひつつある我が裝甲列車である。

滿洲事變　步兵第〇聯隊の突進



十一月十八日黑龍江軍擊滅の命令下るや、同日拂曉我軍は一齊に蹶起し敵の主力を斷然壓倒して前進、大興より衣拉巴、湯池、三間房と瞬くひまに席捲して、同日午後一時既に昂々溪を占據し、その夜八時**チチハル**に入城した。寫眞は大興北方衣拉巴に於て我第〇聯隊、聯隊旗を先頭に突擊に移らんとする光景。

滿洲事變

龍山衛戍病院の凍傷兵と
支那人に菓子を與ふ我兵



（右上）素手で金屬類を握れば手の肉がちぎり取られるといふ零下三十度以上の酷寒の中で敵と戰ふ我軍の苦患は正に想像の外である。寫眞は滿洲の戰場に於て無殘な凍傷に罹り朝鮮龍山の衛戍病院に收容せられたる我兵を慰問しつある兒玉參謀長である。

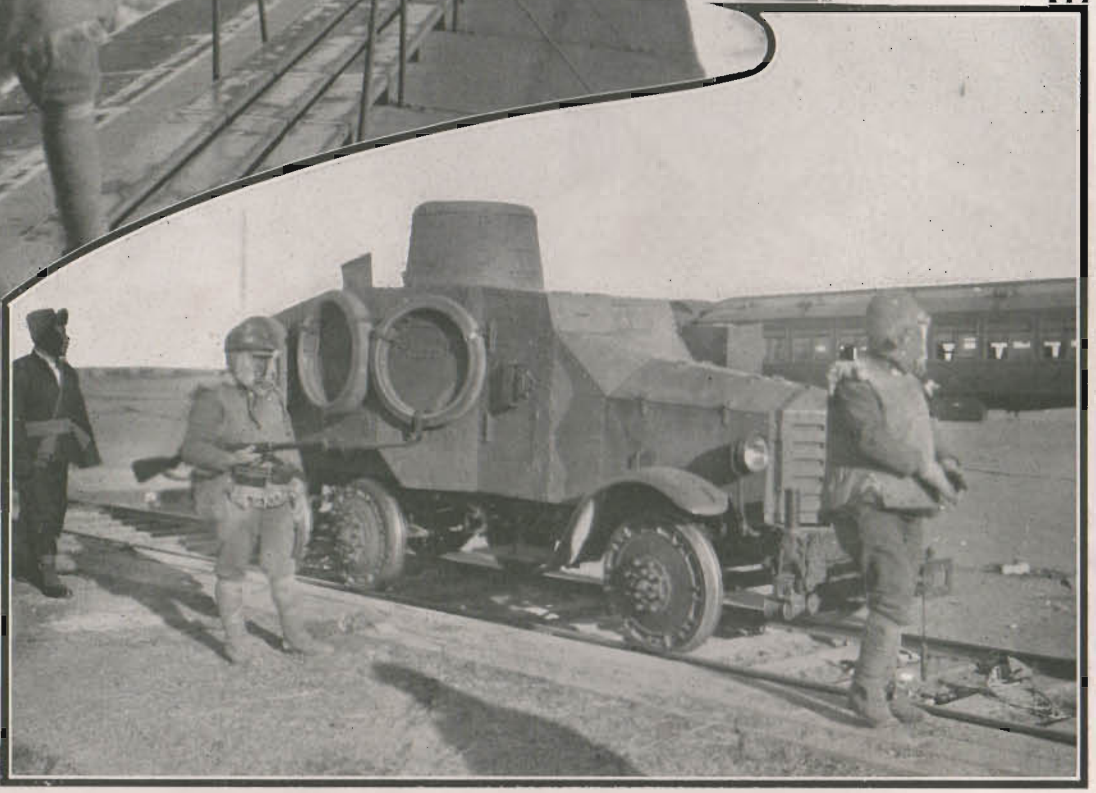


（左下）我が軍用列車が停車する毎に近在から群がつて來る支那人に氷砂糖やキヤラメルを與へる我兵である。寫眞は新民驛にて。

滿洲事變

裝甲自動車と軍用列車





（左上）十一月二十四五日頃より錦州軍の北寧線前衞部隊は臺安より新民屯方面に亘り陣地を構築しつつあり、馬賊と策應し我軍に敵對して來た。我軍は此の方面に出動、支那軍討伐の前衞戰を開始した。寫眞は北寧線を走る軍用列車の屋上より敵狀觀測中の我軍である。

（右下）鐵道軌道上を走りつつ敵陣を砲擊する装甲車は昂々溪方面の戰闘に偉勳を樹てた。寫眞は**チチハル**に到着した殊勳の装甲車。

滿洲事變 ◆◆◆ 野戰病院の我が負傷兵



十一月十八日昂々溪の戰ひに我が多門第二師團長は二萬以上の大敵に對し僅か四千足らずの兵力を以て敢然中央突破の戰法を取り、遂に敵の主力陣地を擊破して是を潰亂せしめたが、該戰鬪に於ける我が軍の死傷は百三十五名に上つた。寫眞は此の戰ひに負傷したる一兵が野戰病院に收容せられたる光景である。

滿洲事變　戰友が淚の敬禮

昂々溪の戰ひは今次滿洲事變中最も激烈なる戰鬪であつた。此の戰ひに於て多門第二師團長は歐洲大戰當時獨逸の執つた中央擊破の戰法を用ひ、乘るか反るかの一大決戰を以て敵の擊滅を圖つたので從つて我軍の損害も意外に甚だしかつた。寫眞は戰線より護送される戰死者に對し戰友等が淚の敬禮である。



滿洲事變

板倉大尉の戰死・其他

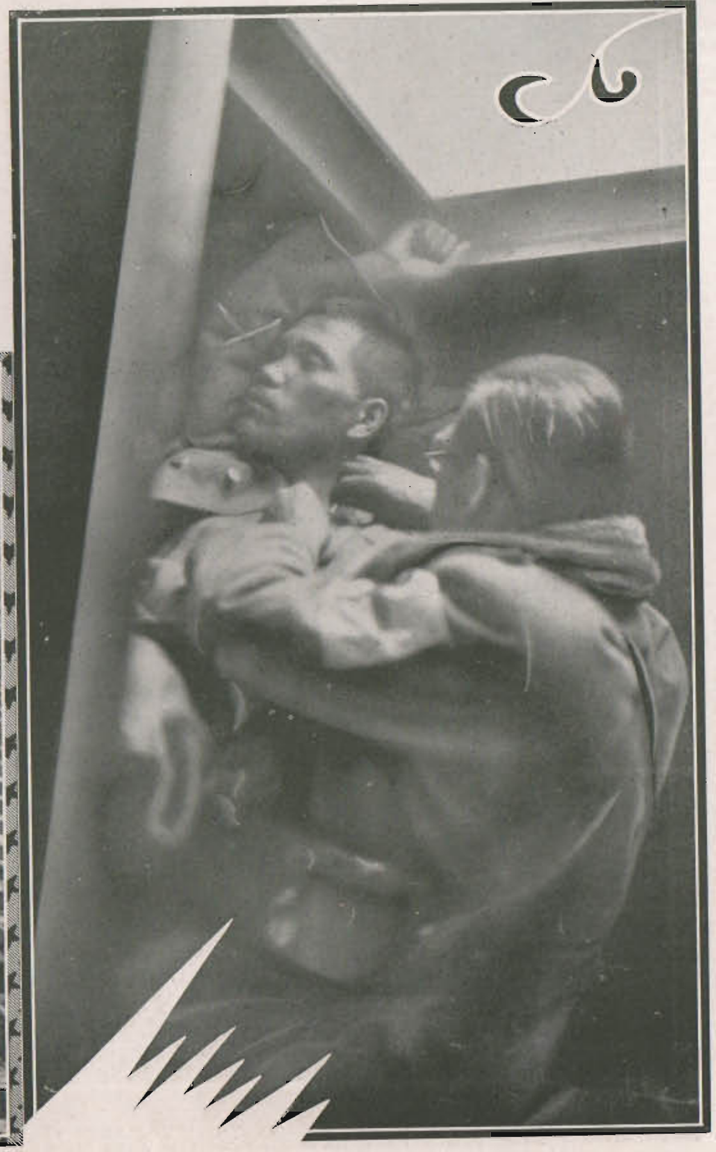
（右）十一月二十七日裝甲列車に搭乘、白旗堡附近進行中、敵彈の破片に中り、列車の乘降口より倒れ落ちんとする刹那の板倉大尉である。

（左上）十一月二十七日錦州方面進擊中の我軍野砲が白旗堡附近に於て敵陣砲擊の有樣

（同下）同日白旗堡南方の激戰に於て我獨立守備隊第○大隊の散兵陣地







滿洲事變

河野大尉の告別式其他

（右上）四倍以上の大敵を向ふに廻した昂々溪の激戦に名譽の戦死を遂げた河野砲兵大尉の遺骸をチチハル市外の日本墓地に移送し告別式を營みつゝある有樣。

（同下）奶頭山方面の兵匪討伐に向ふ我が騎兵隊。

（左）昂々溪方面の戰ひに負傷した將士が汽車にて奉天驛に送られ、病院に收容されんとするところ







滿洲事變

黒龍江省黨部其他



（右）十一月十八日午後八時我が先頭部隊は歩武堂々**チチハル**に入城、直に公安隊及び巡警の武装解除を行ひ、即刻安民の布告を爲した。寫眞は我軍の占據した黒龍江省黨部の正面である。



（左上）馬占山軍の殘黨を一掃して十一月十九日、隊伍肅然**チチハル**に入城したる我軍の騎兵隊



（同下）湯崗子方面に兵匪出沒、掠奪放火を敢てするとの急報に接し是が討伐に向ひたる獨立守備隊司令部である。







滿洲事變

装甲車と騎兵聯隊

（右上）十一月二十七日北寧線饒陽河、白旗堡の中間に於て敵の装甲列車と遭遇し激戦是を壊滅せしめたる我が装甲列車

（同下）十一月十九日チチハルに入城、その北大営に入つた我が騎兵第○聯隊。

（左）チチハル市街に軍用電話架設中の我が電信隊。

滿洲事變

天津市街の防備振

（右）十一月二十六日の夜天津に於て突如支那兵匪の暴動起り我軍は斷乎是に應戰した。寫眞は土嚢を以て窓を防備した我が天津憲兵隊本部。

（左上）天津、日本租界の第一線に陸軍と協力して配備に就いた我が海軍陸戰隊。

（同下）天津伊太利租界に於ける伊太利兵の警備振り。



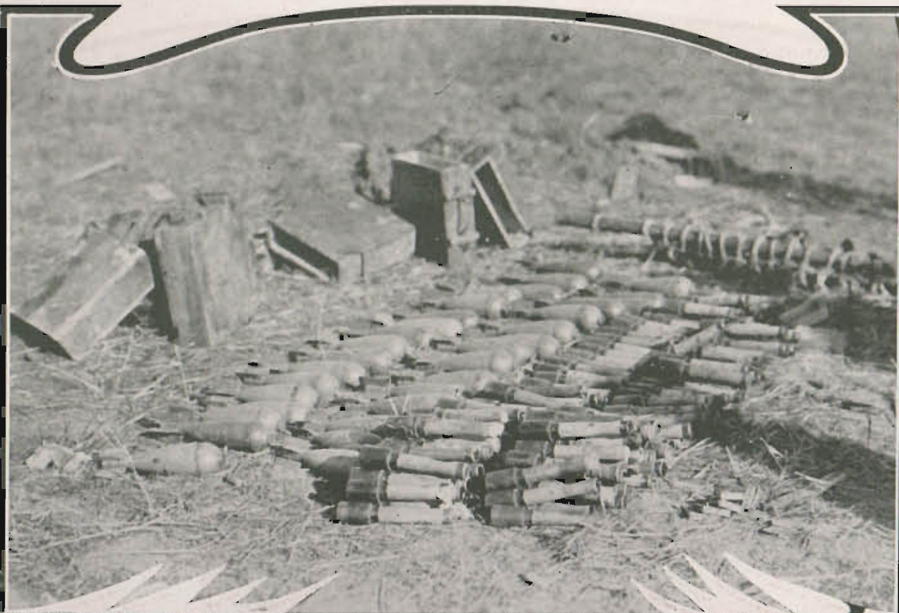


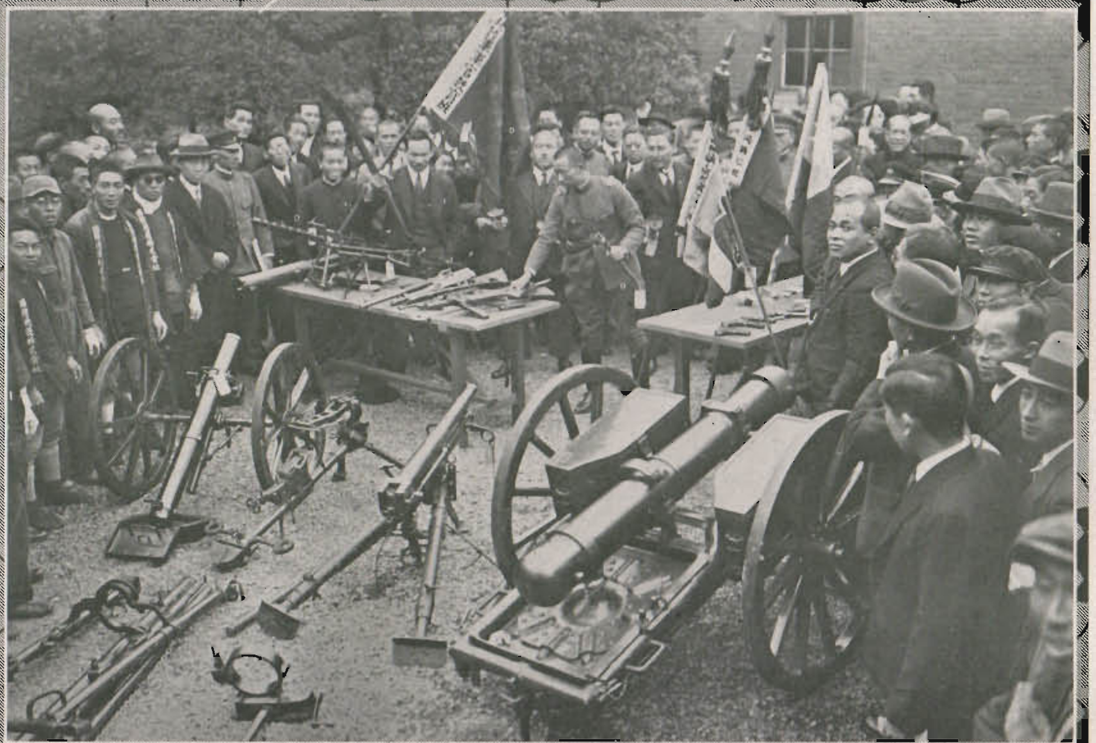


滿洲事變

支那使用の手榴彈其他







（右上）大興方面の激戰に於て彼我兩軍の白兵戰に支那兵の使用したる手榴彈。

（同下）奉天北大營及び南嶺の戰ひに支那兵の遺棄したる兵器六十餘點を内地に持歸り十一月二十五日より陸軍省に於て陸軍關係者に觀覽せしめた

（左）錦州附近に於て實彈を襷掛けにした物々しい支那警戒兵。







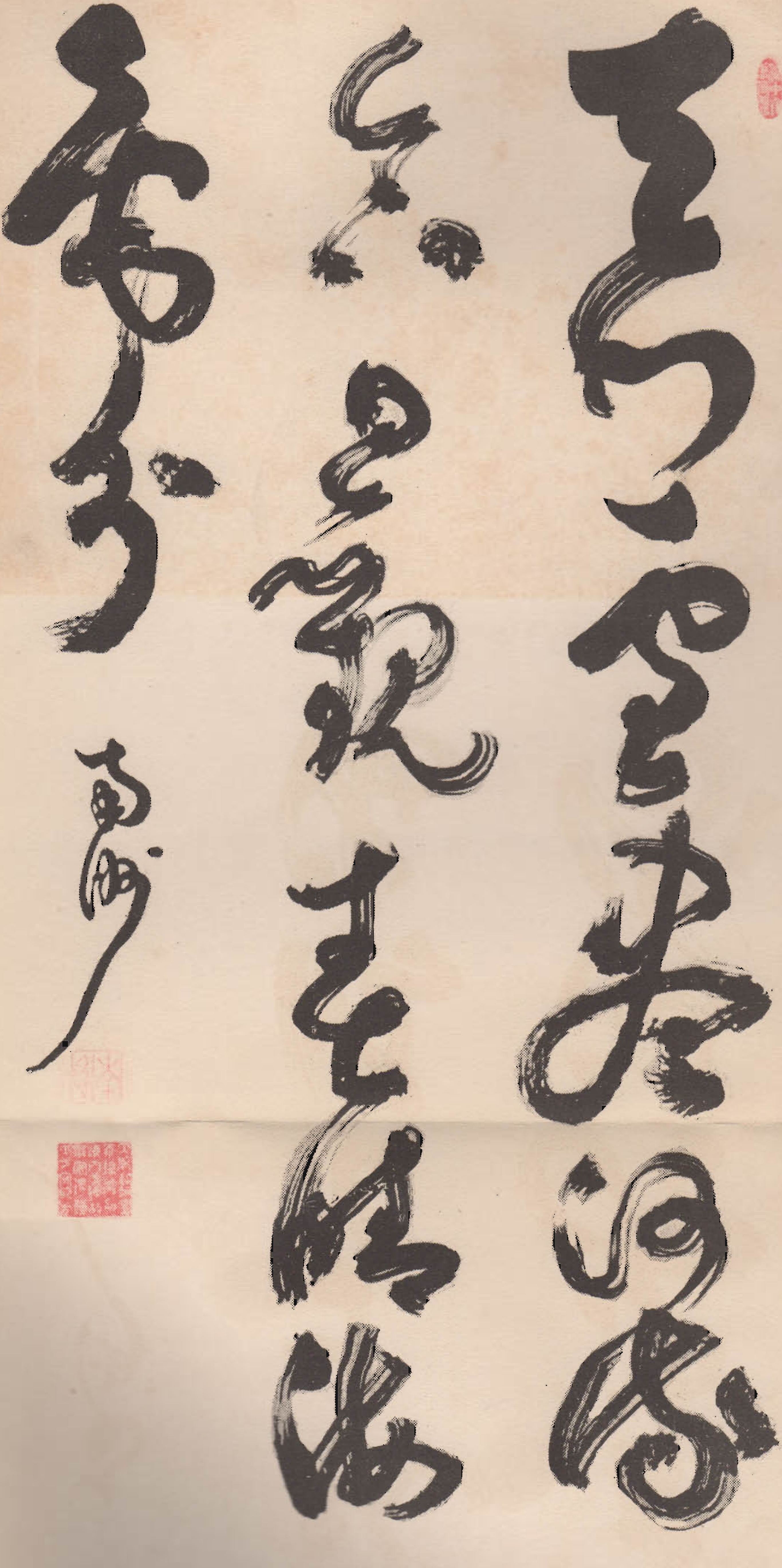
滿洲事變

銃後の女性

（右）滿洲軍慰問の爲め渡滿した愛國婦人會代表内山訓子さん、宗像ツタ子さんは十一月二十三日東京驛に歸省。

（左上）滿洲軍慰問の爲め腹巻の千人針を街頭に求むべく東京澁谷の藝妓連三百名は先づ二重橋前にて祈願を籠めた。

（同下）日本赤十字社より滿洲に派遣せらるる二十名の看護婦は十一月二十七日東京驛を出發した。



□□先哲遺墨　西郷隆盛書



日本誠忠十二鑑

（其一）『高山彦九郎、皇居を拝す』

伊藤鷺城畫伯筆



陸軍

・特別大演習・

(1)

昭和六年度の陸軍特別大演習は、十一月十二日より三日間、肥後平野に於て擧行せられ、大元帥陛下には親しく是を御統監あらせ給ふ。寫眞御愛馬「白雪」に召されたる陛下の英姿





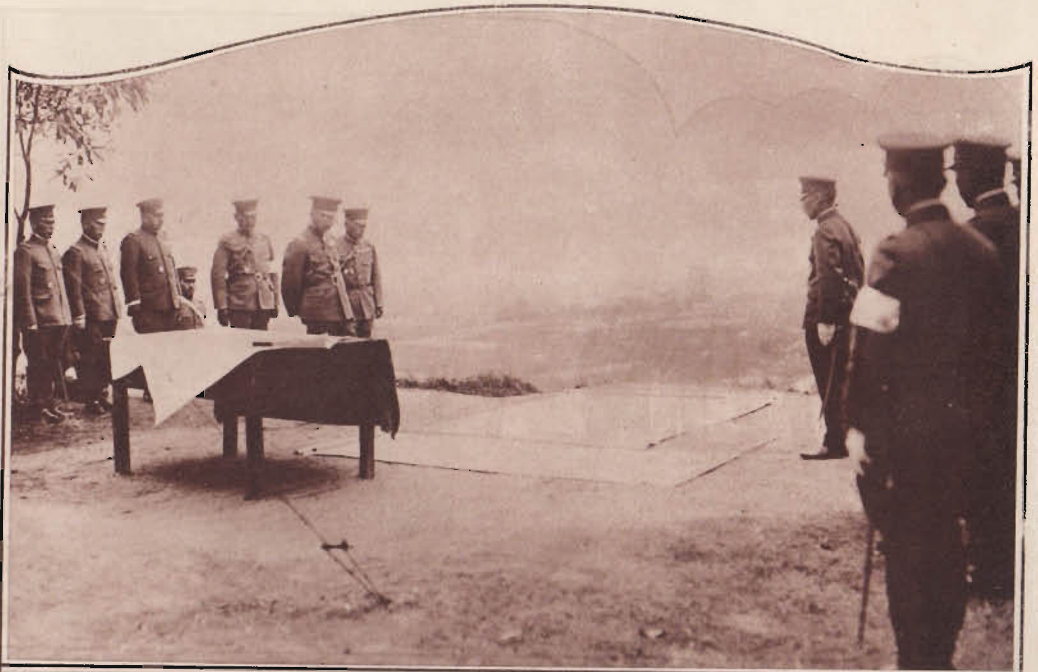


陸軍特別大演習（2）

今回の陸軍特別大演習は南軍司令官は渡邊大將、北軍司令官は菱刈大將、兩軍共に大約二個師團づゝの兵力を具備し、熊本平野を目指して南北より進撃、是を爭奪せんとするものである。寫眞の右は十一月十一日大元帥陛下佐世保鎭守府に入らせられたる際、天皇旗を揭揚するところ。左上演習第一日龍田村に於ける南軍砲兵陣地。同下北軍機關銃隊である

陸軍特別大演習（3）

演習第一日大元帥陛下には熊本なる大本營御出門、鹿兒島本線植木驛附近隈府村野外統監部に於て親しく兩軍の戰況を御覽はさせられたがその間南朝の忠臣菊池氏に就て御前講演を開召され、續いて別格官幣社菊池神社に御參拜あらせられた。寫眞右上同御野立所の大元帥陛下。同下南軍機關銃の攻擊。左統監部に於て金谷參謀總長以下幕僚の記念撮影である







陸軍特別大演習（4）

十一月十四日大演習終了するや翌十五日には熊本帯山練兵場に於て大觀兵式及び饗宴あり十六日には八代宮御參拜十七日には愈々陛下豫ての御希望たりし阿蘇大火山の御研究を遊ばさることとなり、御途中官幣大社阿蘇神社に御立寄り御拜あり、それより御登山、噴火口附近まで登らせられ、種々の御研究あらせられた。寫眞の右阿蘇神社御親拜を終らせられたる陛下。左上阿蘇山上の陛下。同下白川上流に於て敵前渡河の南軍歩兵隊である





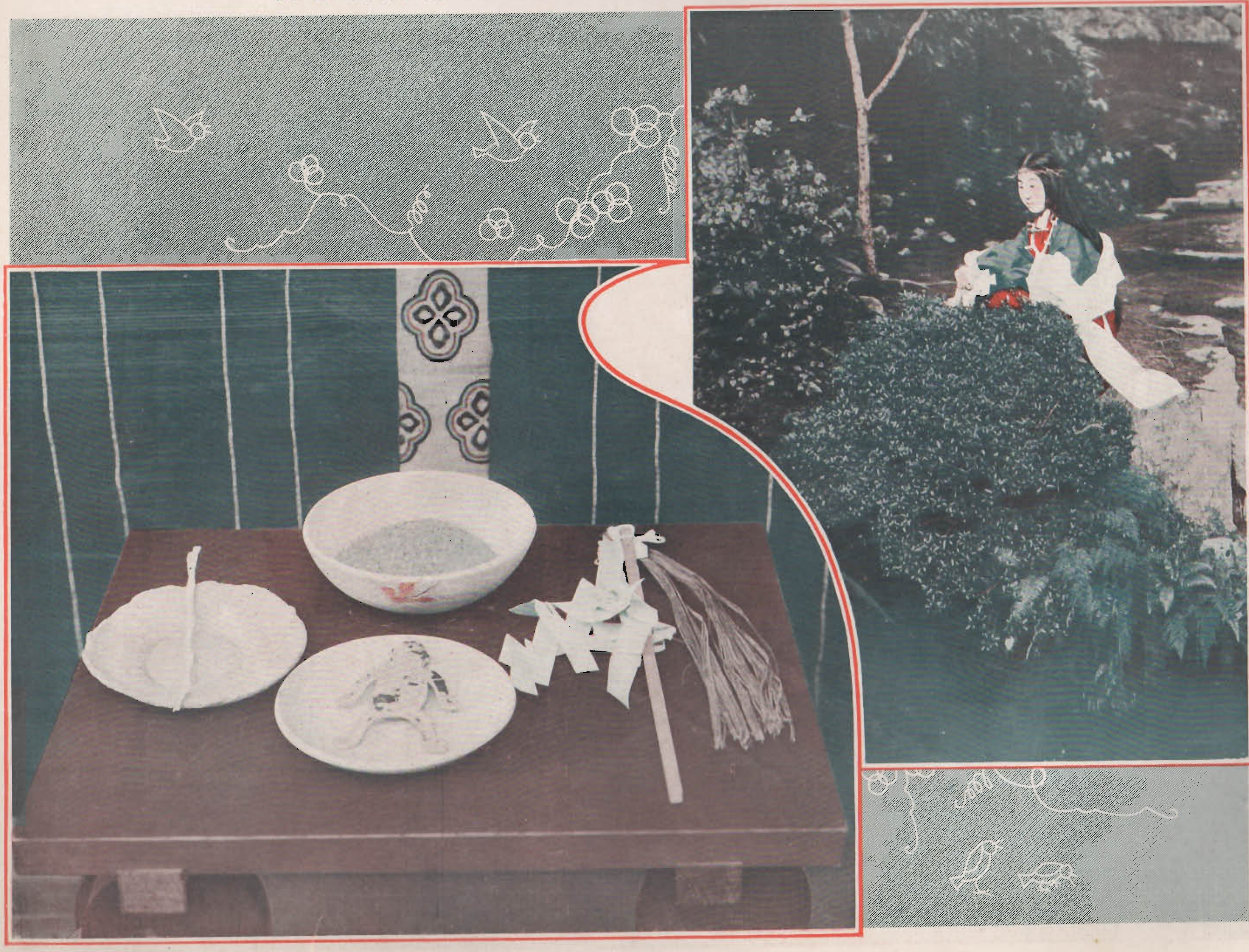


・・・干支に因みて・・・狂言「うつぼざる」

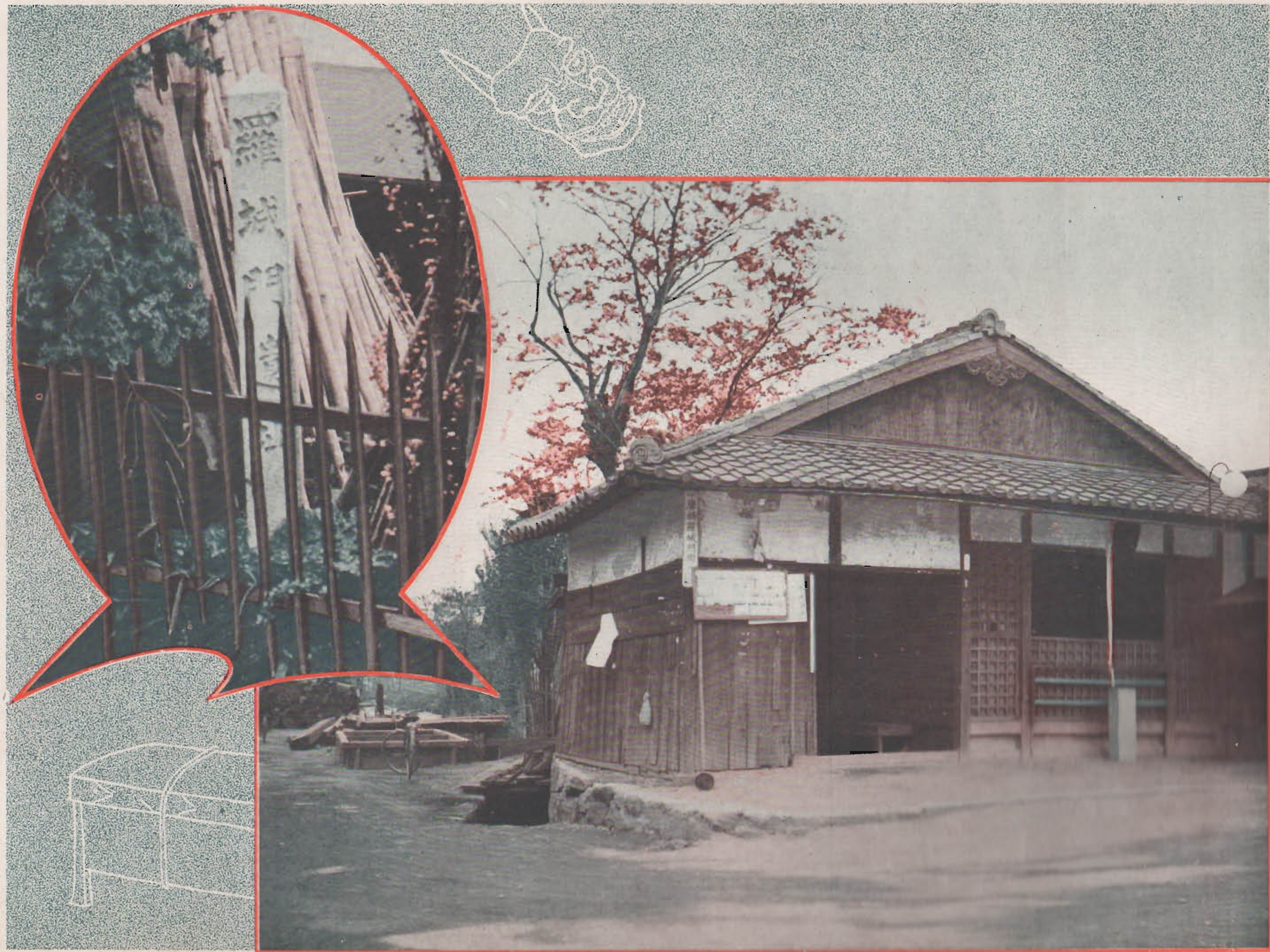


さる大名、徒然のあまり太郎冠者を召連れ獵に出で立つたが、その途中、猿曳きに逢ひ、猿の毛並のとりわけ勝れたるを見て自分の靱に使用したいと思ひ、猿曳きにそれを呉れよと強請つたが、猿曳きは久しく飼ひ育てたるいとしの猿をむざ／＼手離すこと能はず之を斷りたる爲め、大名大いに怒り猿曳き共々其場に殺さんといきり立つたので、太郎冠者、双方を押しなだめ、猿曳きに對し猿を討つて差出せとさとせば、猿曳き今は辭むべからずと觀念し、猿を曳き寄せ仔細を語り、一氣に打殺さんと鞭を取上ぐれば無心の猿は日頃敎へられたる舟漕の藝と心得、卽座に立つて櫓の眞似をするに猿曳き堪へやらずわッとばかりに泣き入る。大名その場の容子を見てひそかに哀れを催し、是を助けたので、猿曳き夢かとばかり打喜び其のお禮にとて、猿に舞を舞はさすれば、大名も連れて舞ひ、興に入りて太刀や小袖、素袍など惜し氣もなく猿曳きに與ふることを作つた狂言で、室町時代の大名の性格の長短を巧みに表はし、古來狂言道の秘曲とされたものである。寫眞大名に扮せるは大藏流茂山千五郎氏である。

◆◆◆時代風俗寫眞小観◆◆◆（其一）上代風俗と祓



日本民族の特性の一は身心の潔癖を望むことである。假令、知らず〳〵の間にでも犯した罪咎は心の汚れとして是を一掃せんとし、素盞嗚尊のやうに爪鬚や所有物を千座の置戸とて机の上に載せて提供し、青天白日の身にならんとしたのである。況して身の汚れなどは伊弉諾尊の日向小門の阿波岐原の御禊の如く水に託して洗ひ清めたものである。この風が變じ、後世已れと同じやうな人形を作つて是を一撫一吻して水に流すこととなつた。祓の風俗即ちそれで、爰にその祓の用具を示す。一は散米で瓊々杵尊が高千穂峰で穗を撒いて霧を攘ひ給ひしを起原とし是を撒くのである左の縄は解縄といひ、苧で作られ是を解いて汚れを解く方便とする。下は人形で、賀茂祭に用ひられるもの、右にあるは祓の幣串である。扮裝人物は飛鳥時代の女性、頭に日蔭鬘を巻き、頸に珠をかけ、萌黄の上衣に領巾をかけてゐるが、今、人形を水中に投げて已れの汚れを攘ひ落さんとするところである。（風俗研究會扮裝　主幹江馬務解説）



昔源頼光、春雨の夜のつれ〴〵に四天王を呼び集へ酒宴を催してゐたが、此頃、都の羅城門に鬼が出て人をあやめる由聞く誰ぞ是を討つて功名せよと呼びかけたので、渡邊綱、勇躍是に赴き、武者振ひよろしくあつて鬼と渡り合ひ、漸くその腕一本を切取つて歸つて來た。やがて鬼は綱の伯母に化けて奪られた腕を取戻すべくやつて來るのである。是に關する芝居や狂言は新古演劇十種の『茨木』や『傚曾我大江山入』及び『羅生門』などがある。さて此の羅城門は桓武天皇平安京を御造營の砌り、その正南門として設け給ひしもので朱雀大路の南端にあつたが、後、第六十四代圓融天皇の御宇、倒壞廢頽し、以後造營しないことになつた。現在その場所は京都千本通りの南端、鳥羽四つ塚といふ處で、その址は德川時代刑場を置かれたが、今は閻魔堂が設けられ、門の斷礎が尚存し、『羅城門遺址』の碑が立つてゐる。寫眞の右は卽ちその閻魔堂、左は碑である。

（黑川翠山寫）

先哲の面影とその遺跡 ◆◆◆ (其一) 柿本人麿







『百人一首』の中に『あし曳きの山どりの尾のしだり尾のなが〳〵し夜をひとりかも寢む』と歌つた柿本人麿は奈良朝の歌人で、而も亦古今無比の歌聖と稱せられてゐる。持統、文武の二朝に仕へ、紀伊、伊勢、吉野に扈從し、晩年石見に赴任、遂にその地に歿した。『萬葉集』の中に長歌十六首、短歌六十餘首を收め、萬葉前期を代表する最大の歌人で、殊に長歌に秀いでてゐた。尙、彼れの歌へる短歌の中で、『ほの〴〵と明石の浦の朝霧に島かくれゆく船をしぞおもふ』や『三熊野の浦の濱木綿百重なすこゝろは思へどただに逢はぬかも』などは特に人口に膾炙したものである。寫眞の右は人麿の肖像。左下は明石市人丸山の中腹にある人丸神社本殿。同上は同神社の境内にある芭蕉翁の句碑である。

皇后陛下學習院へ行啓

皇后陛下には、十一月十二日目白の學習院へ初めての行啓仰せ出され、授業の實際其他に就て約二時間に亘り極めて御熱心に御覽あらせられた。此寫眞は當日陛下の御優姿である



御茶亭の東伏見宮大妃殿下

十一月七日京都の愛國婦人會は折柄御入洛中の東伏見宮大妃殿下を洛東南禪寺畔なる稲畑氏の別莊に御招待申上げ、山上の茶亭に於て裏千家宗家淡々齋宗匠がお茶を差上げ、殿下には御興深く聞召された。寫眞の右は同茶亭内に於て拜寫したるもの、右方正面は大妃





殿下、左に在るは淡々齋宗匠、その左は別莊の主稲垣勝太郎氏夫人。又左上は大妃殿下が今しも茶亭御退出の光景である。因に茶道は明治以後大に廢れたれども足利時代より徳川時代まで上下卑賤を問はず盛に行はれたもので、その裏千家は豐臣時代の有名なる茶人千利休を元祖とする茶道千家流の一流派である





エチオピア特使の來朝

上下三千年、世界最古の皇統國と稱せらるるアフリカ、エチオピア國に於て昨年國王の戴冠式擧行せられ我皇室より特使を參列せしめられたその答禮として、同國外相特派大使ヘルイセラツシエ氏は、我が天皇陛下へ同國最高勳章及び國書捧呈の爲め十一月六日來朝、卽日參內陛下に拜謁した。

かくて同大使は翌七日外相を訪問し、明治神宮に參拜、午後は上野動物園を參觀、その夜歌舞伎座に赴き折柄上演中の『淸盛と西光』『時雨の炬燵』等を熱心に見物した。寫眞右上はヘルイ大使歌舞伎座樂屋訪問、幹部俳優連と交驩のところ。又左下は上野動物園參觀中の光景である



無脚の水泳家ジミイ君

耐水百時間十五秒といふ世界記錄を有する無脚の水泳家ロシヤ生れの米國人チヤーレスジミイ氏は十一月中來朝、同月十八日隅田公園プールに於て得意の水泳振を公開した。ジミイ氏は今年三十八才八才の時電車に轢かれて兩脚を失ひ、爾來只管水泳を勵み、異常なる上體の發達を示すに至つたもので、先妻との間に二兒あり、又近くマニラに於て新たな愛人と結婚することになつてゐるさうである。寫眞の左は隅田プールに於けるジミイ氏で當日は來朝中の米國野球團大投手グローブ君等參觀したる中に平泳、背泳、宙返り、潛水等の妙技を示し觀衆を驚歎せしめた。又寫眞の右は氏の背泳振



1932

表紙繪と口繪

——表紙繪——

◇滿洲大興の我軍

據て日本軍の眞の威力を認識せず加ふるに露軍の後援あるを恃みて事毎に傲慢不遜の態度を示しゐたる黑龍江省首席馬占山は、十一月四日の午後に至り大興附近に集結したる五千の大兵を以て突然我軍に對し挑戰行動に出でたる爲め、我軍は寡兵を以て是に應戰したるも、敵騎兵の大集團は諸所に出沒して盛に我れを惱まし、難戰苦闘二晝夜に及びたるが、急報に接し後方よりの應援部隊續々到着するや、六日朝に至つて我軍は戰況一擧に挽回して、猛烈なる攻擊に移り、敵陣忽ち潰亂すると共に、我が飛行機は、退却中の敵を爆擊し莫大なる損害を與へて遂にその第二陣地を占領した。本寫眞は同方面の我が歩兵第〇大隊、今しも塹壕より跳躍突擊に移らんとする光景である。

——口繪——

◇滿洲戰死者の靈祠

九月十八日滿洲事變突發以來、十一月六日迄に於ける名譽の戰死者は倉本少佐以下七十餘名に上つたので、靖國神社に於ては取敢へず『滿洲事變戰死者靈祠』の假宮をその境内に建設することとなり、遊就館側後庭の築山に是を建て同日嚴かなる招魂式を擧行した。寫眞は卽ちその靈祠と式の有樣である

◇鐵道守備隊の勇姿

我軍の奉天入城と共に、多數の敗殘兵は滿洲在來の馬賊土匪と共に各地に出沒して居住民に危害を加ふる外、或は鐵道其他の築造物を破壞せんと企つるもの尠くないので、我が守備隊は是等不逞の徒に對しても常に警備を怠らないのである。寫眞は四洮線の某地點を警戒する鐵道守備隊が、馬賊來襲の急報に接し敢然戰闘行動に移らんとするところである。

◇征途へ上る勇士

弘前第八師團管下の滿洲派遣交代部隊〇〇〇名は十一月十五日品川驛に到着、又、別に立川航空隊及び中野電信隊の若干名も同じく品川驛に集り、是等の部隊は前後して同驛を出發萬里の征途に上ることとなつた。寫眞は走り去る汽車の窓より萬歲を叫び合ふ勇士達。

日本誠忠十二鑑

◇高山彦九郎正之

（伊藤鶯城畫伯筆）

彦九郎は上野國新田の人、夙に勤王の大義を抱き、志を立てて京師に上るや先づ三條大橋に至り地に伏して遙かに皇居を拜し、途上の男女怪みて笑へども更に意としなかつた。圖は卽ち彦九郎。

今年の本誌

『時代の最も正確な記錄である』ことを理想とする本誌は、年頭に際して種々の新計畫を立ててゐるのですが、昨年より引續いての『滿洲事變』は我國に取ては實に日淸日露の大戰に亞ぐ重大事件で、此の時局の進展如何に依ては更に如何なる大事變が勃發するやも圖り知られざる狀態であり、且又、朔北の酷寒と戰ひつつ祖國の爲めに干戈を執つて起てる我が勇士の奮闘振は實に目覺ましきものあり、本誌としては此の國家多難の秋に際し、全誌を擧げて『滿洲事變』の爲めに一大記錄を作製することこそ本來の使命なりと確信いたし、玆しばらくは推移する時局と並行しつつその編輯方針を立ててゆきたく思ふのであります。乃ち本號も亦前々號より引續き『**滿洲事變特輯號**』第三卷として發行し、誌面の大部分を事變の爲めに費し、新規計畫及び從來より繼續すべき連載物の多くは餘儀なく是を割愛することとなりました。然し是は、幸ひにして刻下の滿洲事變が目出度き終局を告ぐるに及ばば必然又常態に復し、各種の連載物其他も當然掲載致すこととなりますもので、此事は讀者各位に於かせられても豫め御諒解おきを希ひたいと思ふのであります。

そこで玆には、現に編輯局が今年度の本誌の上に計畫いたしてをりますす數種の事項に就て一言申述べておきたいと思ひます。

◇表紙繪

本號は滿洲事變に關する寫眞を以て是に充てましたが、新計畫としては『**季節に因む古代風俗畫**』の連載で、帝展派の重鎭、堂本印象、案本一洋、板倉星光、木村斯光、岩佐古香の各畫伯が交互にその麗筆を揮はれる事となつてをります

◇口繪

第一に『**日本誠忠十二鑑**』を毎月連載いたします。筆者は伊藤鶯城畫伯と小早川好古畫伯、此のお二人が隔月交代に執筆せられます。

◇グラビア

從來**グラビア**版は毎號八頁宛掲載いたしましたが、本號より更に八頁を増加し、特輯寫眞又は**ニユース**寫眞を掲載、一層内容の充實を圖ることにいたします。

◇色刷寫眞欄

新たに『**先哲の面影と遺蹟**』『**時代風俗寫眞小觀**』『**京洛演劇遺蹟巡遊**』及び『**内外各地名勝案内**』等を連載し、別に從來よりの『**歷代山陵集**』『**帝國海軍の偉容**』『**大社**』『**本山**』『**百人一首名勝**』等をも繼續登載いたします。

世界日誌

自昭和六年十一月六日
至昭和六年十二月五日

◇十一月◇

（六日） 北滿洲嫩江方面に於て去る四日以來、我軍に對し攻撃を開始したる馬占山麾下の支那軍は、今曉來我軍の猛烈なる攻撃に依り全軍總崩れとなり東支線を越え**チチハル**方面に向つて退却、我軍はその主力を大興附近に集中整理を終る。

（七日） 讀賣新聞社の招聘に依り來朝したる米國職業野球選手の一行は、本邦に於ける最初の試合を、本日神宮球場に於て先づ立敎**ティーム**と試み七A―〇にて大勝す。

（八日） 大元帥陛下には肥後平野に於て擧行せらるゝ陸軍特別大演習御統監の爲め本日午前九時五分宮城御發輦、橫須賀軍港に行幸、御召艦『榛名』に乘御、佐世保に向つて御發航遊ばされたり。

（九日） 本日午後十時前後、民國救國軍と稱する反張を標榜せる多數の暴徒、天津支那街に蜂起し、支那官兵と各所に於て衝突、日本租界も亦危險に瀕したるに依り、我軍應戰、發砲するに至り全市大混亂を呈したり。

（十日） **ジュネーヴ**に於ける聯盟本部に於ては日支紛爭解決に對する可能的一案として、支那駐屯の外國軍隊に依て聯盟の國際的警察隊を組織するか、或は聯盟より軍隊を派遣し是を以て滿鐵の保護に當らしむる案が理事會に提案せらるる傾勢にありとの報あり。

（十一日） 豫て重態を傳へられゐたる我が實業界の大御所澁澤榮一子は前夜來容態急變し今曉一時五十分眠るが如き大往生を遂げたり。享年九十二歲なり。

（十二日） 陸軍特別大演習は愈々本日より大元帥陛下御統監の下に開始せられ、南北兩軍は菊鹿平野に於て相見え菊池河畔の大遭遇戰に第一日の幕を閉づ。

（十三日） **チチハル**に於ける日本領事館は支那官憲に包圍せられ外部との交渉一切遮斷され出入の日本人は勿論**ロシヤ**人も悉く捕縛訊問を受くるなど危機愈々切迫したりとの報あり。

（十四日） 陸軍特別大演習、愈々本日を以て終り、大元帥陛下には優渥なる勅語を賜ばりたり。

（十五日） 國際聯盟反省要望、撤兵反對の大示威行列は本日午前九時より奉天在市民總動員の下にいと盛大に擧行せられ、是に參加するもの朝鮮人、支那人、白系露人等一萬五千名に上りたり。

（十六日） 本日拂曉黑龍江軍は我軍に對し積極的行動を開始し、虹橋鐵橋の再破壞を企てたる爲め我軍是に反擊を加へ、彼我兩軍の間に戰鬪開始せられたり。

（十七日） 大興北方の黑龍江軍は今夕より總攻擊を開始し主力を擧げて我軍を包圍せんとしつつありとの報あり。

（十八日） 大演習御統監後引續き熊本御駐輦中の天皇陛下には本日同市外帶山練兵場に於て九州各縣及び山口縣の中等學校以上の男女生徒、靑訓、男女靑年團、在鄕軍人等六萬六千餘名を御親閱遊ばされたり。

（十九日） 去る十七日以來黑龍江軍と激戰を交へたる我軍は破竹の勢を以て敵を壓倒し、今朝午前十時、何等の抵抗を受くることなく**チチハル**に入城したり。

（二十日） 我が飛行隊は**ハルビン**の北方約五十里の地點に在る**ハイラル**に逃入したる馬占山軍を殲滅する爲め今曉〇〇根據地を出發、その上空に至り猛烈なる空中攻擊を加へ遂に馬軍を全滅に陷らしめたりとの報あり。

（廿一日） 東京地下鐵道萬世橋神田間の延長線敷設工事竣成したるに依り本日その開通式を擧行す。同區間は昭和四年六月七日工事に着手し、工費百七十餘萬圓を要し、神田川底の**トンネル**式工事など日本最初の建築樣式が施され地下鐵工事の一進步を示したり。

（廿二日） 昨夕、大演習地より歸京したる安達內相の發表したる協力內閣容認の聲明書は端なくも政界に一大波紋を投じ、若槻首相に對する世上の不信漸く深まるの觀あり。

（廿三日） 曩に王正廷氏辭職後空席となりゐたる支那國民政府外交部長に顧維鈞氏任命せられたり。

（廿四日） 鞍山南方の滿鐵線西方一帶に襲來したる敗兵土賊八千を討伐する爲め森〇〇軍司令官は今朝來總攻擊令を下し我〇〇隊及び〇〇隊は錦州軍第一線に向け總攻擊を開始したり。

（廿五日） 政府與黨內に於ける現狀維持派と協力內閣派との內面的抗爭は益々深刻化し來り、兩派の正面衝突は避け得られざる形勢となれり。

（廿六日） 本日午後八時二十分天津に於て突如支那兵匪の暴動起り支那側は日本租界目がけて亂射亂擊を開始したる爲め、我軍も是に應射し、同九時四十分頃支那側は遂に重砲を發射するに至り、その彈丸**イタリー**租界に落下し、伊軍も是に應戰、砲聲殷々として全市に轟く。

（廿七日） 張學良は北寧線及び打通線方面の支那軍に對し遂に總攻擊令を發したり、同時に我が關東軍司令部は極度に緊張し〇〇旅團は〇〇方面に向つて急行したり。

（廿八日） 關東軍は四圍の情勢に鑑み滿鐵線外に派遣したる各部隊に對し現狀復歸を命令したる爲め、北寧線上の我部隊は今曉來續々新民屯に引揚げ來れり。

（廿九日） 今朝十一時支那側は代表を天津の我軍司令部に派遣し武裝保安隊を南運河以北に撤退し且つ市內の防禦工事を全部撤去すべきに依り諒解ありたき旨申出でたり。

（三十日） 陸軍大尉秩父宮殿下には先頃目出度く陸軍大學を御卒業あらせられ、新たに步兵第三聯隊第六中隊長に補せられ給ひしに依り本日三年振にて麻布の三聯隊に御歸隊あらせられ午前十時より同聯隊に於て命課布達式を行はせられたり。

◇十二月◇

（一日） 第二回防**火デー**を警視廳、東京府、市消防協會等の協同主催の下に本日東京全市に於て賑々しく擧行せられたり。

（二日） 前黑龍江首席馬占山は最近著しく軟化の色を見せ、遂に本日萬福麟の直系にして排日派の急先鋒たる徐寶珍及び騎兵第五十五旅團長園魁昇を免職すると共に**チチハル**に向ひ前進中の徐軍に對し進擊中止を命じたり。

（三日） 貴族院議員法學博士花井卓藏（六四）氏は本日午前六時半頃東京市神田區錦町の事務所の寢室に於て**ガス**の爲めに窒息死亡しをること發見せられたり。

（四日） 錦州及び大遼河以東の支那軍漸次に前進し來り、一方四洮線方面に於ける張學良麾下の別働隊頓に活氣を呈し、奉天包圍の姿勢を取るものの如くなり。

（五日） 德川家達公貴族院議長に任ぜらる。明治三十六年初めて議長就任以來既に四回の任期を滿了し、今回は實にその第五回目の重任なり。

本號に限り一部定價　金六拾錢

歷史寫眞第貳百貳拾四號（每月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和六年十二月二十五日印刷納本
昭和七年一月一日發行

定價送料共一部　金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣　同　金六拾錢
其他外　同　金八拾錢

編輯兼發行人　東京府下代々幡町笹塚一二三〇　多田鐵雄
印刷所　東京市小石川區久堅町一〇八　共同印刷株式會社
發行所　東京市神田區千代田町二八　歷史寫眞會
本取扱所
（電話神田六五七一）（振替東京三四八二九）

歴史寫眞

滿洲事變特輯號

第二巻

昭和六年

十二月號



歴史寫眞第二百二[illegible]二號
昭和六年十一月二十[illegible]日印刷納本　大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和六年十二月一日發行（毎月一回一日發行）

表紙繪と口繪

―表紙繪―

◇美人畫（島成園女史筆）

風俗研究の權威江馬務氏は嘗て、『女流の美人風俗畫も澤山あるが、島成園女史の描かれたものは最も故實に適つてゐる』といふやうな意味のことを言はれたことがある。成園女史は大阪の人、夙に北野恒富畫伯の門に入りて畫技を修め、文展時代既に入選三回に及び褒狀二回を得られてゐる。研究心の旺盛なることと畫道に熱心なることとは他の幾多の閨秀畫家達の到底匹敵し能はざるところで、描かれた美女の顏かたちが常になまめかしくふくよかに、情趣おのづから纒綿、觀者をして恍惚たらしむるものあるは女史の一特色、本圖の如きも亦近來の力作小品として推奬するに足るものである。

―口繪―

◇狩場の霰（伊藤鷲城畫伯筆）

『もののふの矢なみつくらふ籠手の上にあられたばしる那須の篠原』の古歌の情景をさながらに描き出された感あるものは卽ち本圖である。性來、馬を好まれる鷲城畫伯は、馬の繪が又大のお得意、鞍に狩衣すがた凛々しき武士數人をそれぞれ駿馬に跨らせ、秋の枯野に獸を追ふ颯爽たる姿を表現せらる。縱横に馳驅する逞ましの逸足、獲物を狙つて强弓の滿を引く武士の風貌、折しも吹き來る木枯に、白銀の霰を亂して横なぐりに飛びすがふ霰の矢玉、殺氣おのづから滿地を壓して風雲將に急ならんとする狩場の趣きが如何にも巧みに寫し出されてある。

◇踊る人々（帝展秀作）（大野隆德畫伯筆）

大野隆德畫伯は每年の帝展に力作を出し、最早や我が洋畫壇に微動だもせざる優越の地歩を獲得せられたる人。本圖は今秋の帝展に出品せられたる大作で、場中に於ても一二を爭ふ雄大なもの、二人の**オペラ・ダンサア**が半裸體の見るからに妖艷なる姿態は、自然に觀者の明るい微笑を誘ふに足るものがある。殊に是ほど刺戟的な色彩を用ひて而もそこに全體としての色彩の**ハーモニー**を示してゐる點は、非凡の技倆と稱するを得べく印象の極めて豊かな作品である。

◇倉本少佐葬儀

九月十九日、南嶺の激戰に於て名譽の戰死を遂げた陸軍步兵少佐倉本茂氏の聯隊葬は、故人と因緣深き東京麻布市第三聯隊營庭に於て十月十五日いと盛大に執行せられた。寫眞はその葬儀場の全景を俯瞰したるもので、正面は遺骨を安置す靈殿である。

◇支那兵の遺留品を燒く

九月十九日奉天郊外の支那兵舍東大營を襲ひたる我軍は忽ち敵を掃蕩して是を占領した。圖は我軍が支那兵の遺棄したる廢物同樣の被服其他の物品を營庭に於て燒却しつつある光景である。

卷頭寸言

◇本誌十一月『滿洲事變特輯號』第一卷は倉卒の際の編輯に係り、且つ例月より約一週間發行日を早めましたので、いろいろ不備なる點もあり、內容價値に於ては洵にお恥しいものでありましたが、幸ひにして江湖各位の御期待に適ひ、忽ち初版を賣盡し、再版を重ぬるに至りましたことは、誠に感謝に堪へない次第であります。

◇本號は、前號に引續き第二卷として發行いたしました。滿洲の風雲未だ霽れず、兇暴の馬賊と不逞の敗殘兵は、各所に出沒して或は我軍に對し徒らに蟷螂の斧を揮ひ、又は無辜の良民を損へてあらゆる殘虐を敢てし、更に最近に於ては馬占山の率ゆる暴戻なる黑龍江軍の大擧我軍に抗するあり、天津に於ける暴動、上海に於ける排日騷ぎ等、此ところ南北支那は全く寧日なき狀態であります。

◇而も一方、國際聯盟理事會といふ頑固殺然の寄合ひは、おべんちやらの支那代表に巧みに瞞着されて、日本へ對し事每に不利なる提言又は決議をなし、我をして事實進退兩難に陷らしむるの有樣となりましたので、滿洲事變の餘波は引いて奈邊に至るやも測り知られず、今や危急存亡の深淵に臨んだ我國民としては、所謂擧國一致、敢然として所信の一路に勇往邁進するより外はないのであります。

◇嘗て『好戰國』と呼ばれた日本も、必ずしも强ひて戰ひを求むるものではありますまい。我等とても決して戰爭をよろこぶものではありません。平地に波瀾を起すことの愚は昔も今も變りはないのであります。然しながら暴慢無殘にして苟くも帝國の尊嚴を傷つけその權益を犯すものに對しては、傳家の寶刀又おのづから鞘ばしらざるを得ないのであります。かくて『滿洲事變』は果して今後如何なる進展を示すでありませうか、將來のことは誠に逆睹し難いものがあります。

◇本誌特輯號も既に第二卷を出しました。或は三卷、又四卷、更に事態に依ては臨時號をも發行するに至りませう。此時に當り、本誌は常に事變の眞相を傳する最好の記念として各位の座右に在るべき一卷たるを念とするものであります。敢て江湖の御愛顧を希ひ上げます。



満洲事變寫眞

（其二）

奉天東大營占領後支那兵の遺棄せる被服類の燒却

滿洲事變特輯寫眞

――（其二）―― 巨流河城の守備と我が負傷兵

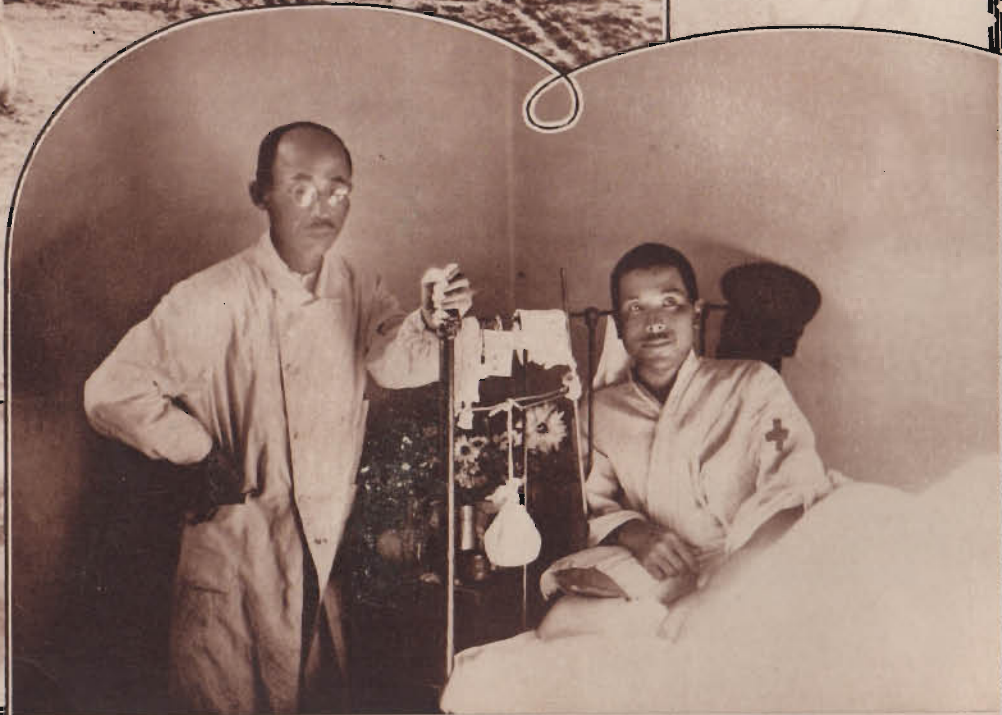
（左上）奉天の西、北寧線上の一邑巨流河方面に於て土匪と奉天の敗殘兵との合體した約五千の聯軍跳梁し掠奪暴行の限りを盡しつつありとの報に接したので關東軍司令部に於ては十月十四日拂曉より一齊に是が攻撃を開始し、正午頃敵を遼河の線に追ひ詰め完全に掃蕩した

寫眞は敵を一掃したる後巨流河城内を守備する我軍



（右下）今回の滿洲事變に於ける我軍の損害は戰死者合計六十八名、負傷者百六十七名を出し、その內、長春及び其附近の戰鬪に於ける戰死者六十六名、負傷者七十六名を算し、同地方の戰鬪が如何に激烈であつたかが想像し得られる。寫眞は長春滿鐵病院內に收容せられたる我軍の負傷者である





滿洲事變特輯寫眞（其二）

—御慰問使と奉天新市長及び戰死者遺骨の禮拜—



（右）畏き邊りに於かせられては滿洲事變地に於ける我軍の實情視察並に將卒の勞苦を御慰問の爲め侍從武官川岸文三郎少將を御差遣あらせられた。同武官は十月十五日東京驛發滿洲に向ひ、同十八日奉天に於ける關東軍司令部を訪問、勅旨、令旨を傳達した





（左上）事變後一ヶ月奉天の秩序も漸次恢復したるを以て土肥原大佐に代り趙欣伯博士市長に就任することとなり十月二十日その就任式が奉天市政公所に於て行はれた。寫眞前列中央は土肥原前市長、その右新市長趙欣伯博士、左地方維持委員會長袁金凱氏。（左下）長春より奉天驛通過內地に向はんとする倉本少佐以下、長春附近に於て名譽の戰死を遂げたる將卒の遺骨に禮拜する居留民である

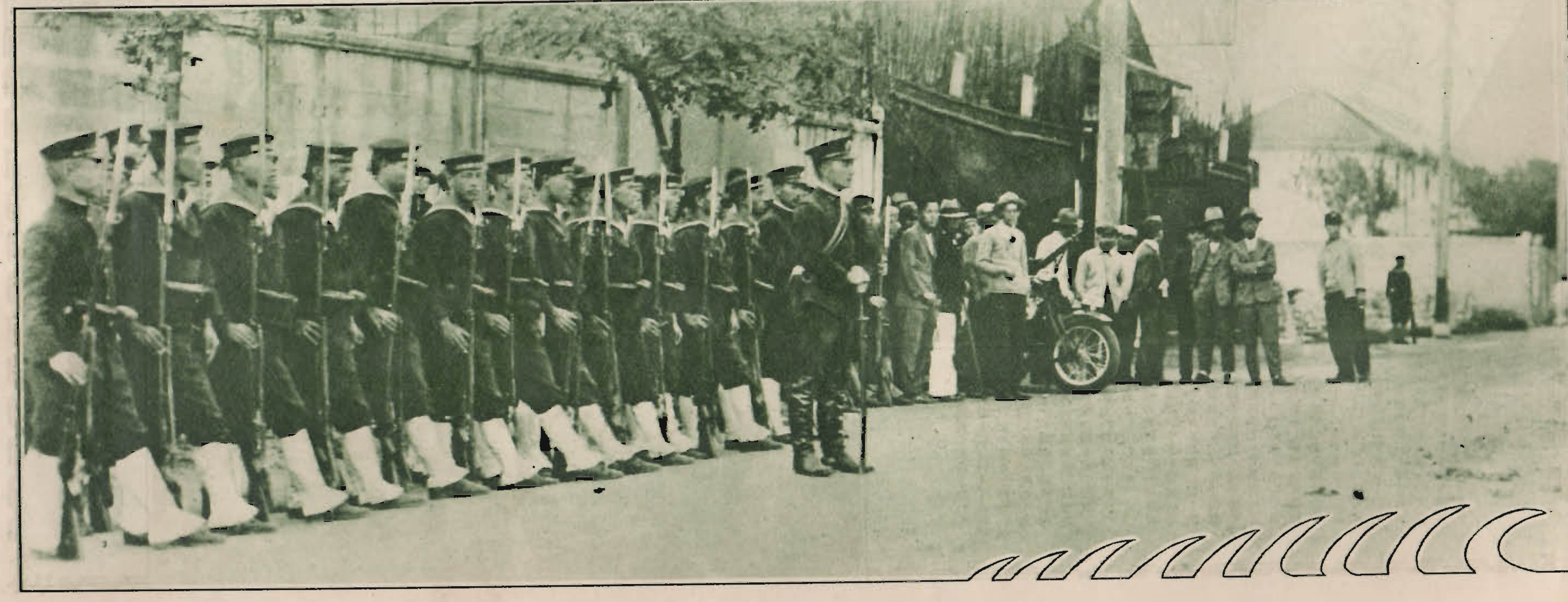
滿洲事變特輯寫眞（其三）

上海の排日惡化と我が陸戰隊の上陸

（右上）上海に於ける排日運動惡化し、十月十八日午前十時半頃一萬餘名の暴徒は邦人紡績工場内外綿工場社宅を襲撃し、大狼藉を働いたが機敏なる我が陸戰隊上陸して遂に是を一掃した。寫眞は襲撃せられたる社宅。（左上）排日惡化の爲め特別陸戰隊四百名を便乘せしめ上海黄浦江に雄姿を横たへたる我が敷設艦「常磐」（下段）前記支那暴徒が上海の内外綿工場を襲撃したる際出動したる我陸戰隊で、當日はタンク機關銃をも繰出し場合に依ては斷乎發砲する準備をなし彼我相對峙して形勢一時險惡を極めたが幸ひにして流血の慘を見るに至らなかつた







…滿洲事變特輯寫眞…

—（其四）—

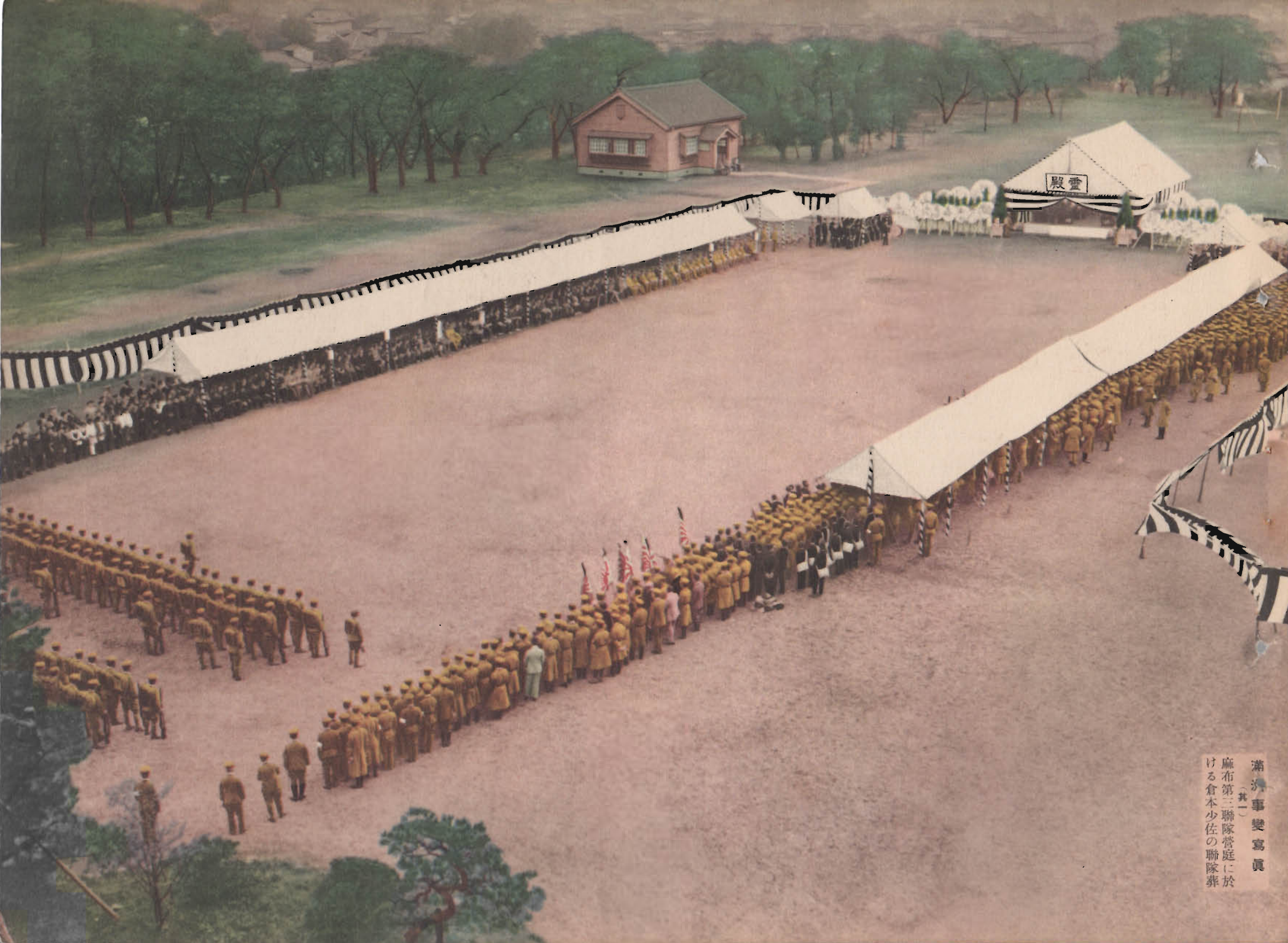
支那自身を害する劣惡なる排日ポスター



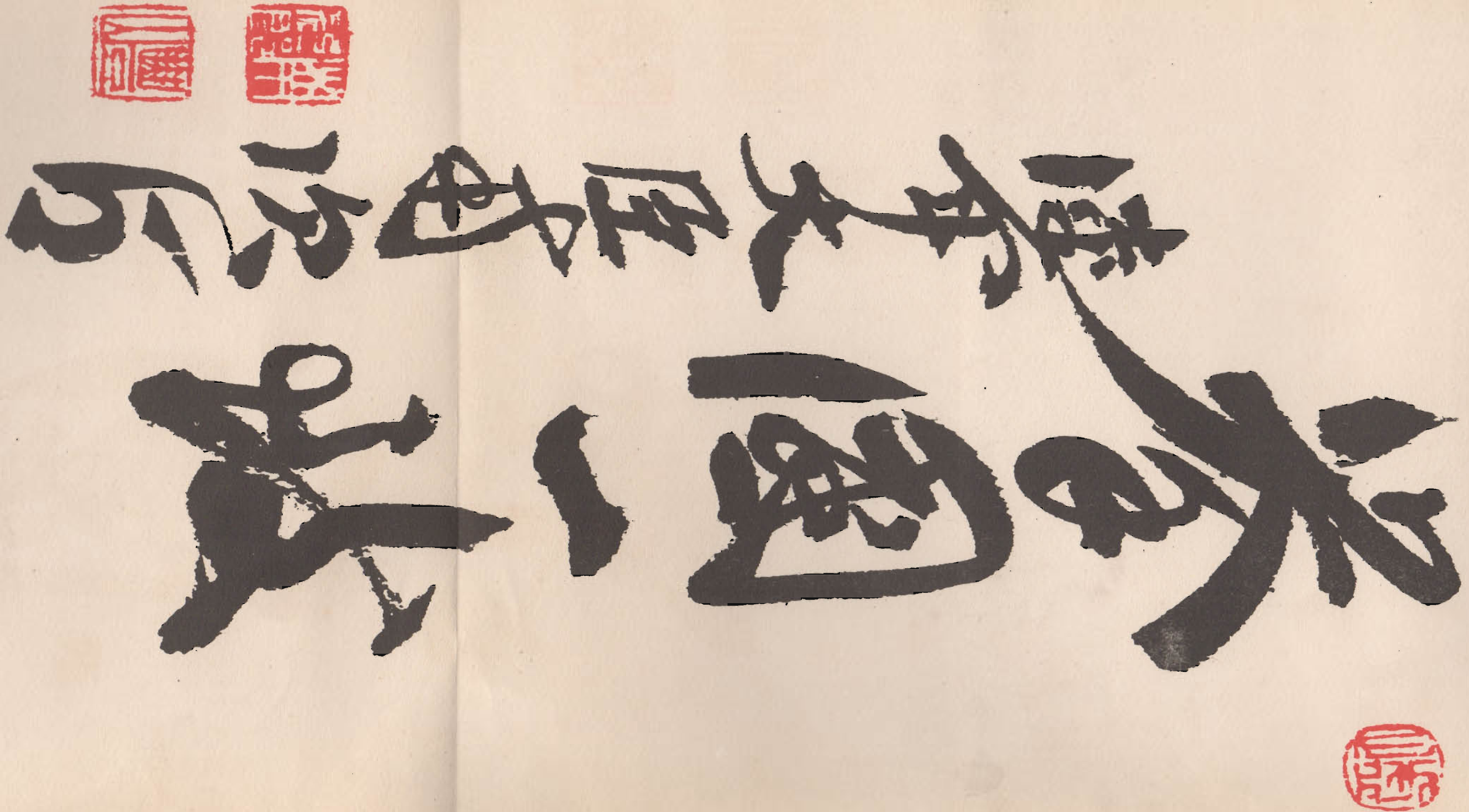




上海に於ける反日運動は益々猛烈となり是に伴ふ支那人得意の排日ポスターは今や街頭を埋めんばかりに貼り出され、その劣惡幼稚の圖案を以てする激烈暴慢のアジポスターは不愉快を極めたもので、そこに誌された過激な毒舌と狂的な暴言とには外人すら眉をひそめざるを得ないものがある。現に十月十一日同地に於ける邦人居留民大會の散會後群衆の剝ぎ取つたポスターの數は四千餘枚の多きに上つたが、その夜の内に更に一層多數のポスターが容易に手の屆かぬ高所に貼り出された。そこで上海總領事館に於ては是等のポスターを外務省に送り外務省で一括して寫眞帳とし國際聯盟事務局に急送し各國代表の參考に資することとなつた。玆に示した寫眞は上海某支那商店のショウウインドウに掲げられた「國難」の大文字、及び愚劣なる排日ポスターの一例である



滿洲事變寫眞
（其一）
麻布第三聯隊營庭に於ける倉本少佐の聯隊葬



(其一) 滿洲軍慰問樽



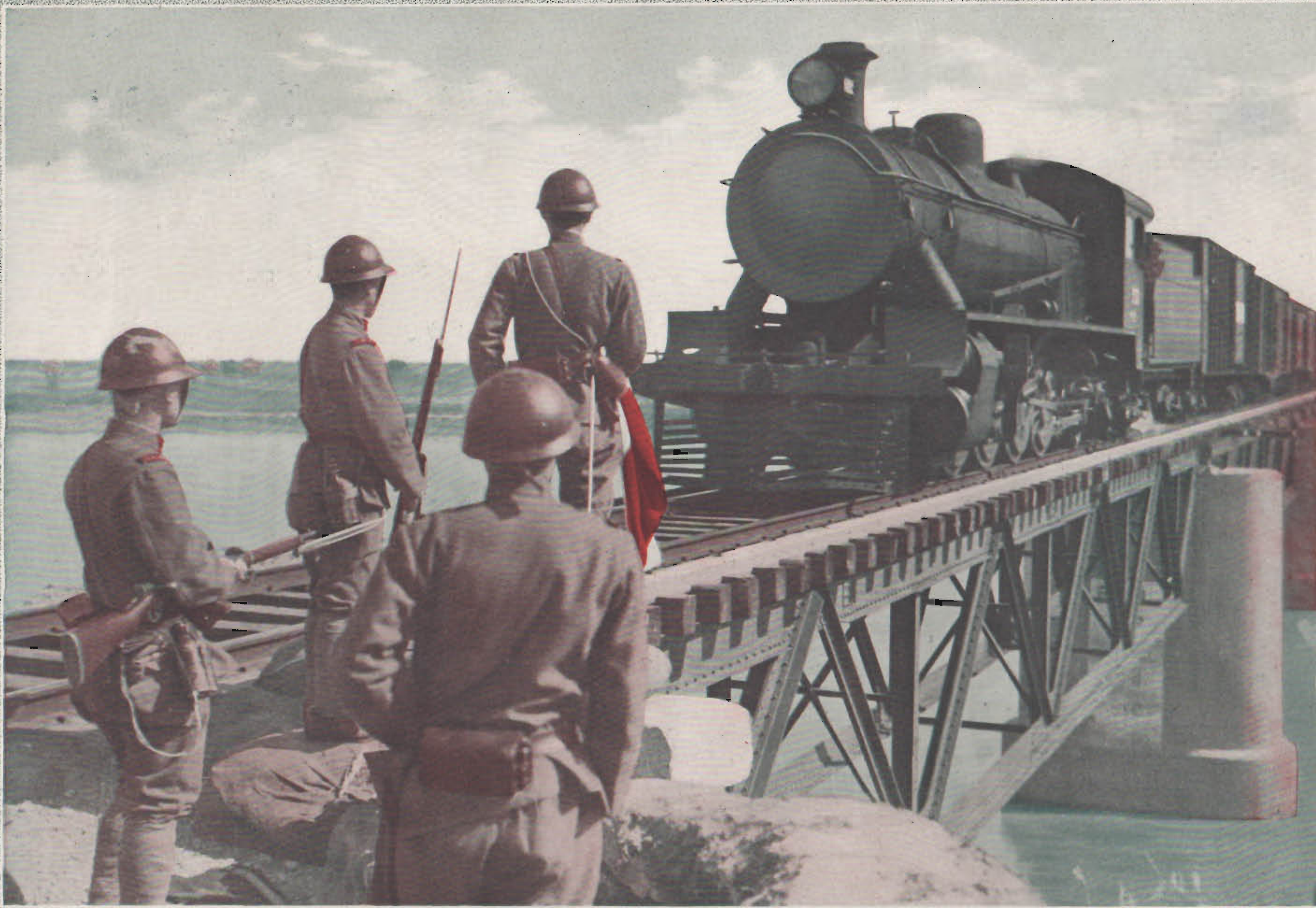
去る九月十八日の夜、奉天北大營附近の滿鐵線路に於て日支兩軍交戰の火蓋を切つて以來、疾風迅雷的に支那軍を驅逐し、爾來今日に至る迄數十日間、廣漠たる滿洲の野に轉戰し、寡兵克く敵を壓しつつ、在留內外人の生命財產保護の爲め、犧牲的、獻身的努力を續けつゝある我が將士の活躍振りは眞に涙ぐましいものがある。そこで是等一念報國の精神に燃ゆる我が軍を慰撫する爲め東京市內各所に四斗樽を据ゑつけ慰問の金品を募集しつつあつたが、忽ちそれらも一杯になつたので、十月六日是を一先づ締切り、少年團の代表者陸軍省に持參し南陸相に手渡した。寫眞はその慰問樽と是を受けて喜び禁じ能はざる南陸相である。

滿洲事變特輯寫眞（其二）上海在留邦人大會



滿洲事變突發後、自らの非を悟らざる支那政府の宣傳に動かされ、無智狂暴の支那人は上海、廣東、北京其他の各都市に於て益々盛に排日の氣勢を擧げ、或は邦人經營の商店を襲擊し、又は通行中の邦人に危害を加ふる等漸次暴虐の度を加へ來つた爲め、上海在住の日本人は十月十一日午後一時より日本人北部小學校に於て居留民大會を開催した。當日は日本人の各商店は悉く休業して是に參加し、參會者の數六千名に上り、非常なる盛會であつた。かくて該大會は、今や時局の危機に際し政府の斷乎たる態度と處置とを希望する旨の宣言を可決して閉會したが、散會後興奮し切つた邦人群衆は一團となつて會場を流れ出で北四川路を南行して氣勢を擧げた。

滿洲事變特輯寫眞　（其三）大凌河鐵橋警備



滿洲事變勃發の當時、張學良麾下の支那軍は關内に出動しゐたる約十一萬を除き、滿洲各地に約二十二萬の大兵と砲約二百十六門あり、その内、奉天附近には約一萬五千、砲約四十門の兵力を有してゐた。然るに是に對する我が在滿部隊は合計僅かに一萬四百人に過ぎず、此の寡兵を以てして二十二萬の支那軍を押へる苦心は實に想像以上のものがあり、單に關東州を防備する外、延長千百キロに亘る南滿洲鐵道の警備に任ずるその責任の重大さは正に言語に絶するものがあつた。寫眞は張學良が錦州にその軍事的根據地を設置せんと企てたる際、錦州附近の北寧線大凌河鐵橋を警備しつゝある我軍の兵士である。

滿洲事變特輯寫眞 ◆◆◆ （其四）張學良の引越荷物



奉天の張學良は夙に才人の名を擅まゝにしてゐるが弱冠未だ天下に臨むの器でない。その父張作霖匹夫より起つて遂に民國大元帥の榮位に上つた餘光を蒙り、彼れ張學良も亦民國の副司令といふ重職に在り、遼寧省の頭領として奉天に君臨してはゐるものの、自らの力を揣らずして徒らに空中樓閣を描き事毎に我れを侮蔑するの態度に出でたるが爲、さしも隱忍自重の我軍部も遂に堪忍袋の緒を切つて電光石火的の一大飛躍を試み、文字通り鎧袖一觸、忽ち彼れが麾下二十二萬の大軍を雲散霧消せしめたのである。寫眞は公明正大荷くも人道に悖らざる我軍が張學良の希望に依り、その奉天の私邸に於て彼れが殘せる荷物を整理し、北平に宛て轉送すべく今や荷造りに從事しつゝある光景である。

滿洲事變特輯 ◆◆◆ （其一）恭親王の北陵參拜

九月十八日の戰鬪に於て奉天は完全に我軍に占領せられたが、我軍は飽までも公明正大、同市民が其堵に安んじて業務に從事せんことを念とし、土肥原大佐先づ市長に就任して、市内の秩序安寧を保持することに全力を傾倒しつゝあつたが、支那側に於ても我軍の誠意を諒解し、一致協力して治安の維持に當つたから、爾來既に二ヶ月を閲して同地は何等の忌はしき事件をも見ないのである。尙又舊清朝の王族恭親王は十月下旬、奉天四民維持會長に就任し、同月二十六日午前十一時北陵に參拜清朝墓前に報告をなした。因に奉天は昔盛京と稱し、清祖の發祥地でその北陵は宗廟である。寫眞は陵前の一行と群衆である。



滿洲事變特輯

(其二)滿洲に於ける我軍の行動

(右上)九月十八日奉天を占領し、同時に長春方面の支那兵を掃蕩したる我軍は同月二十日吉林方面の支那軍が逐次西進せんとする形勢ありとの情報傳へられた爲め本庄軍司令官は多門第二師團長の指揮する混成約一個旅團を同二十一日吉林に向つて奉天を進發せしめ、大なる戰鬪を經ずして吉林城に入城した。(同下)九月十八日、日支兩軍衝突の飛報に接したる遼陽に於ける第二師團の主力即ち歩兵第十六聯隊等は十九日早朝奉天に到着し同城の支那軍を掃蕩したる後、奉天城の東北方約二里の地點にある東大營を襲撃し是に據れる支那軍砲兵隊を完全に驅逐した。(左)九月二十一日第二師團の混成約一個旅團が吉林に入城するや是に續いて長春驛より我が赤十字班が同方面に向つて出動した。



吉林の急に馳せ向ふ混成旅團の一部



我軍に爆破せられたる奉天東大營



長春より吉林に向はんとする我赤十字隊

滿洲事變特輯

（其三）在滿各軍の慰問

（上）在滿各軍御慰問の聖旨傳達の爲め滿洲に赴いた侍從武官川岸陸軍少將は十月十八日奉天なる關東軍司令部を訪問、勅旨と令旨を傳達した。寫眞はその傳達式で右は川岸侍從武官左本庄關東軍司令官である。（下）東京市外下目黑の日の出高等女學校生徒根岸順子、澤道子の兩孃は林校長、原、小笠兩教諭に引卒され奉天、長春、南嶺等を訪問、傷病兵に心づからなる慰問品を贈るべく十月二十八日東京驛發滿洲に向つた。寫眞は東京驛出發の光景である（左）滿洲の實情調査、出先軍憲との聯絡、駐在軍將士慰問等の重大使命を帶び軍事參議官白川義則大將は十月中旬滿洲に赴き十一月上旬歸京した。



川岸侍從武官の聖旨傳達式



滿洲に赴いた白川義則大將

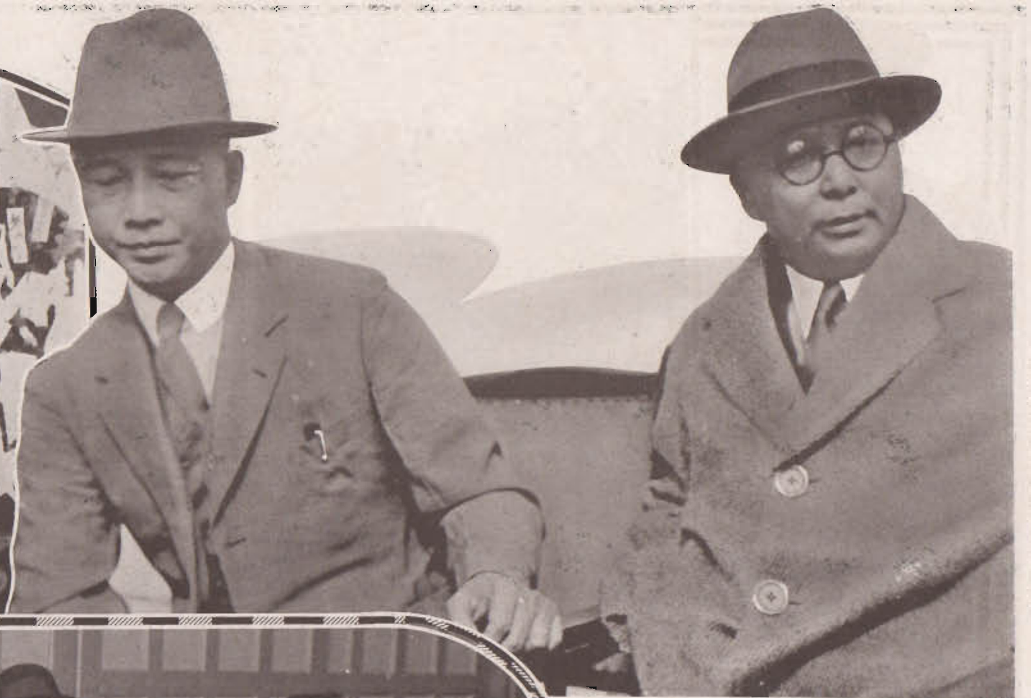


日の出高女代表生徒の渡滿

■■■滿洲事變特輯■■■

（其四）廣東代表、上海の排日及支那留學生連の帶劍返上

（右上）南京、廣東兩政府和平統一の機運濃厚となり上海及び南京に於て統一會議を開催すべく十月二十三日廣東代表汪精衞、孫科兩氏以下九十餘名が上海に乘込んだ。寫眞は當日ランチの上の右孫科氏と左汪精衞氏。（左上）去る九月二十九日卽ち舊八月十五日の仲秋節を期し上海に於て開催せられたる抗日救國市民大會々場光景。（同下）滿洲事變突發すると共に退學歸國を叫んでゐた陸軍士官學校第二十期支那留學生七十二名は陸軍より入校許可を取消され十月十二日陸軍省に出頭して帶劍を返上した。寫眞はその代表者等帶劍を持參したる有樣である。



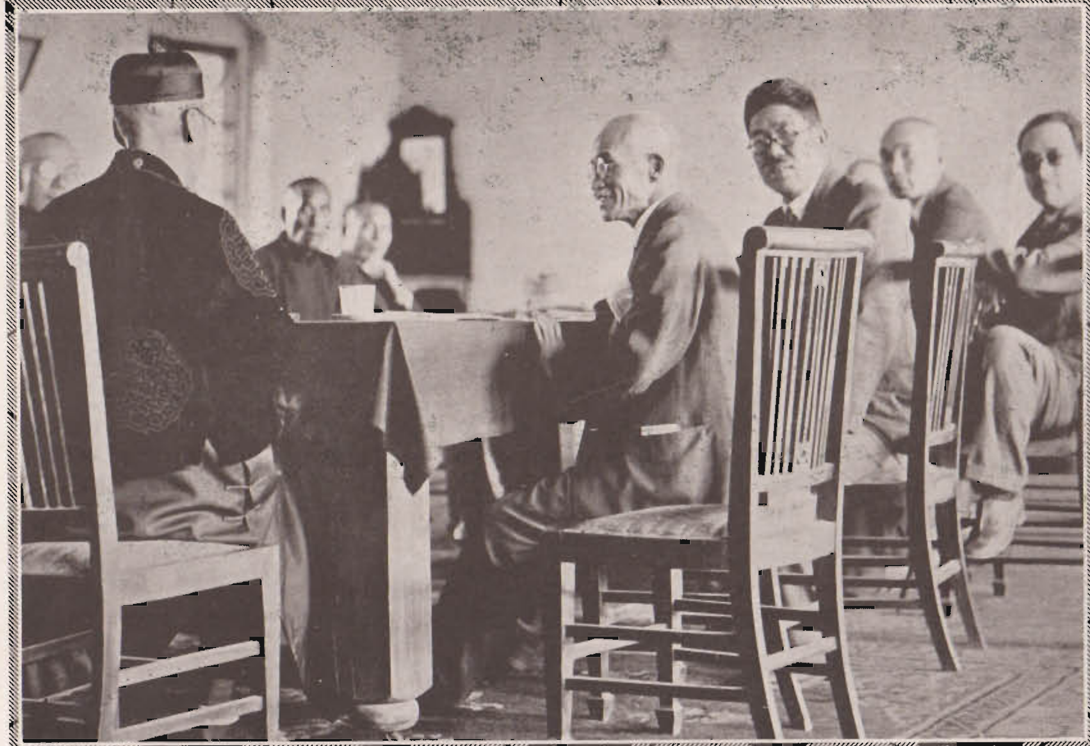
和平統一會議の廣東政府代表



上海の抗日救國市民大會



支那留學生等帶劍を返上す



日支官民奉天市政を懇談す



奉天市政公所を警戒する日本兵と支那巡警

滿洲事變特輯

（其五）秩序を恢復したる奉天

九月十九日奉天城の内外が完全に我軍に依て占領せらるゝや、支那側の行政機關は忽ち停頓するに至りたる爲め、特務機關土肥原大佐は奉天市長に就任し、從來の支那側官憲とも聯絡を圖り鋭意治安の維持に盡力したる結果、在住内外人悉く何等の恐怖不安に脅かさるることなく安心して其業にいそしむことが出來、誠に機宜に適した我軍の措置であつた。寫眞はの右上は奉天市政公所の入口を日本兵と支那巡警と親しく協同警戒しつつある有樣。左上は同市政公所に於て日支兩國の官民一堂に會し市政を懇談協議しつつある光景。右下は奉天市長土肥原大佐の命に依り下層市民の爲め糧秣其他を運搬中の有樣である。



奉天に於ける糧秣配給の光景

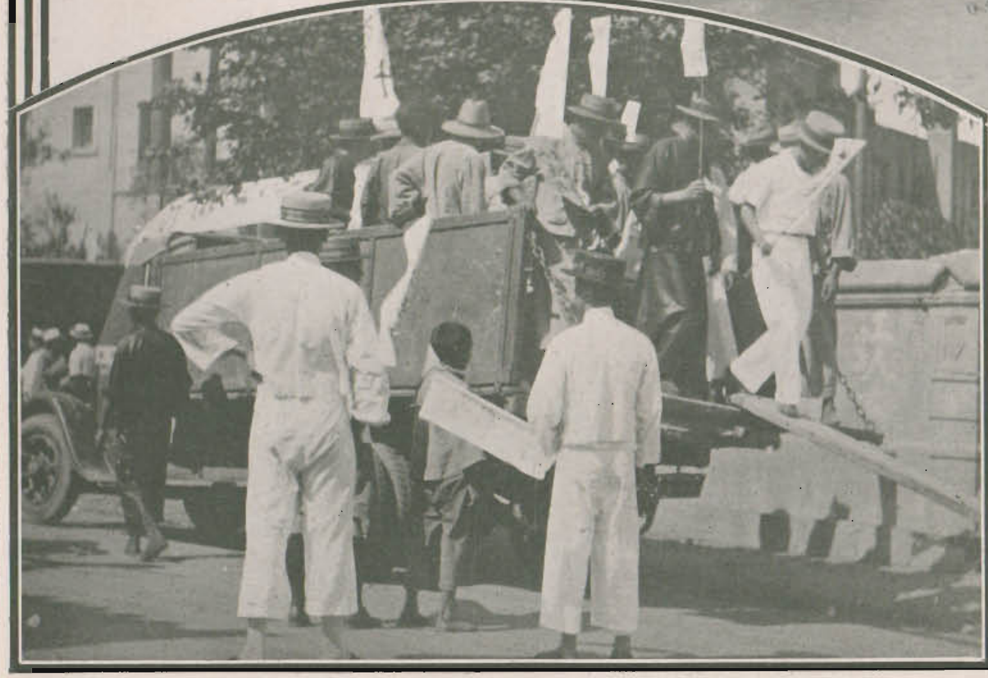
滿洲事變特輯

（其六）上海の排日と我が陸戰隊

上海に於て組織せられた抗日救國會は、同地に於ける邦人の多年努力の結果築き上げた經濟的各機關の破壞撲滅を實行するの暴擧に出て、十月十八日朝來彼等の暴力團體は民衆を煽動し先づ內外棉第五工場襲擊を開始し夕刻に至つて一萬人以上の大群衆は同工場を包圍して形勢刻々險惡の狀態に陷つたので、同地碇泊中の帝國軍艦『常磐』より武裝陸戰隊を上陸せしめ更に**タンク**、機關銃等を繰出して群衆と對峙し、暴徒の態度如何に依ては間髮を入れず發砲の準備を整し、嚴重警戒しつつあつたが、幸ひにして流血の慘を見るに至らず群衆は漸次解散した。寫眞の右上は同夜市內に上陸警戒に任じつつある我陸戰隊。同下は**トラック**に依て運ばるる我が陸戰隊。左は上海の反日大會に參會者が續々會場に詰めかくる光景である。



上海陸戰隊の上陸



反日大會に馳せ參ずる支那人



トラックに依て運ばるる我が陸戰隊

滿洲事變特輯（其七）

國際聯盟理事會



滿洲事變審議中の國際聯盟緊急理事會



孤軍奮闘したる芳澤代表（中央）

滿洲事變勃發するや支那は直ちに緊急措置として世界各國の同情支援を得んとし先づ國際聯盟に訴へて我國を抑壓しやうと試み、九月二十日聯盟の支那代表施肇基氏は、今回の事變に關し其非悉く我國に在るが如き陳述を爲し以て聯盟の注意を喚起し理事會の召集を求めたので、聯盟は支那の要求に基き同月二十二日緊急理事會を開催したが、支那の宣傳に乘ぜられた歐洲の各國理事等は執れも我國と滿洲との特殊關係を正解せず、局面漸次我國に不利となり、次で米國**オブザーヴア**參加が可決せられ、十一月十六日までに我軍の無條件撤兵が十三對一の投票成績を示すに至つて帝國は愈々孤立の窮境に陷つた。寫眞の右は同理事會に於て帝國の主張を高唱孤軍奮闘した芳澤代表（中央）右澤田局長、左坂本書記官である。左上は九月二十二日の緊急理事會の光景で(1)は芳澤代表、(2)は支那代表施肇基氏。左下は聯盟對策の重要閣議に臨まんとする南陸相と幣原外相である。





對聯盟緊急閣議に臨まんとする南陸相と幣原外相

謹呈
國家興廢の極所に立ちて日夜奮斗國威の宣揚に満熱血を濺がれつゝある第一線の各位を思ひ感謝感激の至りに不堪ず
本日故中村少佐殿の陸軍葬に際し我等一同も英靈に對し絶大の誠意を以て之れを弔すると共に其の偉勲を追慕仕この全國民的盛儀に會し少佐殿の遺烈を継承益々助長発展せられつゝある各位に對しその餘瀝の迸りもて茲に我等が赤き熱血を贈りて我等の微衷を表し申し候
國家百年の大計の先陣には武運長久の祈りを捧げ申し上げ候
敬具

昭和六年九月二十七日
在京 第四十一期生

満洲軍
將士各位

滿洲軍に送れる血書

滿洲事變特輯

（其八）

第四十一期生の血書と戰死者遺骨

（上段）多年日支兩國間に蟠まれる感情上の逼迫せる情勢が偶々、支那正規兵の中村少佐虐殺、萬寶山事件等に依て更に一層險惡となり、續いて支那兵の滿鐵本線爆破が導火線となつて遂に今回の滿洲事變を勃發せしめたのであるが就中中村少佐の虐殺事件は我が國民上下の感情を害すること最も甚だしく、同少佐の葬儀當日、少佐の訓育を受けたる士官學校第四十一期生等は其の赤血を絞つて一書を認め是を滿洲軍將士に送る等の悲壯味をさへ示した。（**左下**）滿洲事變の戰死者仙臺歩兵第四聯隊熊川少尉以下三十二名の遺骨が十月十一日上野驛を發せんとし南陸相、金谷參謀總長等見送りの光景。（**右下**）遺骨が仙臺到着驛前より原隊に向はんとする葬列である



戰死者遺骨を見送る陸軍將星



戰死者遺骨仙臺に歸着す


狩場の霰
鷺城

帝展秀作（其一）



洋畫『黃衣の少女』（和田英作氏作）

第十二回帝國美術院展覽會は十月十六日より上野公園美術館に於て開催せられた。帝展は何と言つても現代美術家志願者の登龍門であると同時に、既に世に出た人々に取つても最も重大なる作品評價のバローメーターを勤むるところであるだけに出品數依然として多く、陳列せられた作品だけでも總數一〇三三點の多きに達した。寫眞は第二部洋畫のオーソリテイ和田英作氏の力作で、聊かの微動も見せぬ手堅い作品である

帝展秀作（其二）日本畫と洋畫

『素踊』と『畫室の肖像』と『繡屏』







（右）『素踊』（日本畫）清方門下の秀才で美人畫の名手山川秀峰氏は『素踊』を描いた。女のなよやかな容姿、而も其後ろ姿を見せて踊りの實感を盛り上げた非凡の筆致には敬服せざるを得ない。（左上）『畫室の肖像』（洋畫）昨年院賞を得て審査員となつたとんとん拍子の中村研一氏は、今年も愛妻を**モデル**にして三百號の大作を成し去年の作よりも一層の出來榮と評判されてゐる。（同下）『繡屏』（洋畫）田邊至氏の作。裸女と熊の皮との對照も面白く、屏風の直線に對する下方**ベツト**の水平線の組合せもなかなかに味がある

帝展秀作 (其三)

洋畫と日本畫と 『五位鷺』と『裸婦』と『晴れの舞妓』

(右上)日本畫の『五位鷺』は荒木十畝氏の作、筆力雄健、颯爽たる素描の中に宛ら生きたる鷺を見る。昨年の『軍鶏』と共に後世に遺さるべき秀作であらう。(同下)洋畫の『裸婦』は寺内萬治郎氏の作、アカデミツクな或は更に帝展式な裸體畫だが駆け出しの人々の到底企て及ばぬ確かさがある。(左)日本畫の『晴れの舞妓』は本誌お馴染の木谷千種女史の作、妓の持てる銀扇に多少の硬直さはあるが、麗朗優艶の姿態、觀者を恍惚たらしむるものがある













帝展秀作 彫刻（其四）

『観音』と『久遠』と『髪』

帝展四部の内いつも一番見劣りするのは第三部の彫刻であると言はれてゐる。嘗て石井鶴三氏が帝展の彫刻室を見物しつつ、そこにゐた一人の審査員を捉へ『彫刻は一體どこに陳列してあるのか』と尋ね、その審査員をして茫然たらしめたといふ話があるが、吾々としても帝展の彫刻部を見て真に魂を打たれる作品に邂逅したためしがない。愚かな模倣と笑ふべきこけ嚇しと憐れむべき**マンネリズム**とより外何ものも有たない日本の彫刻だ。玆に掲げた三作は多くの凡作中より拾ひ上げた作品で（**右**）は西村雅之氏の『観音』。（**中**）は三國慶一氏の『久遠』で是は特選となつたもの。（**左**）は北村正信氏の作『髪』である



◇「踊る人々」

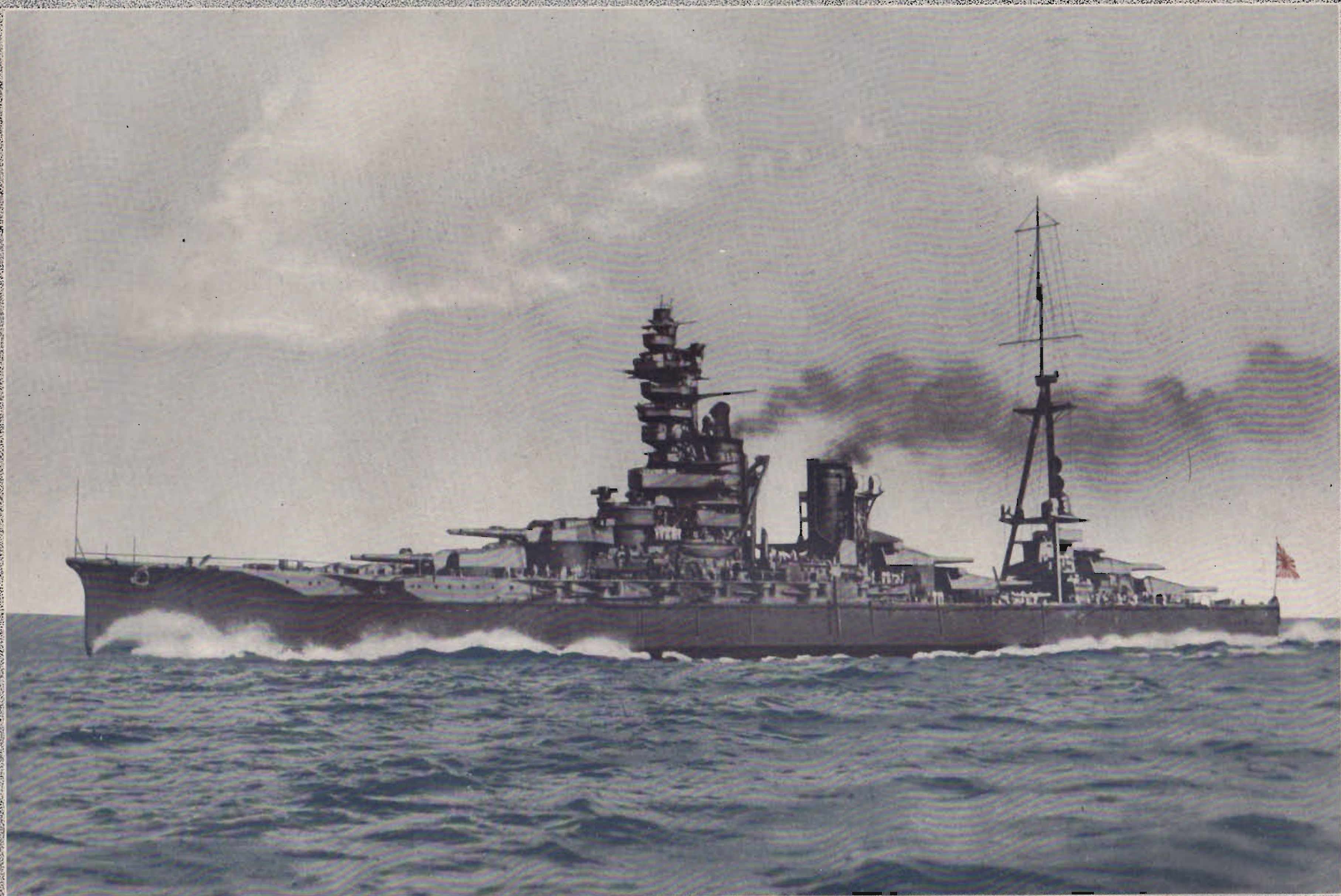
大野隆德畫伯作

◆◆◆季節に因む名勝◆◆◆比叡山の蔦もみぢ



比叡山は京都市の東北方、山城、近江の國境に峙つ名山で、一に天臺山、都富士、日枝の山、叡山、臺嶺、良嶺、北嶺、鷲峰とも稱し、山嶺は雙峰に分れて聳立し、絶頂を大嶽又は四明峰と呼んでゐる。高さ二千七百餘尺で、東方に琵琶湖を瞰下し、西南に京都市の粉壁を指し、淀川の清流又矚目の中に集まる。山の東側は古杉、喬松欝欝として谷を埋め、山氣おのづから清爽たるを覺ゆるものがある。山中また名勝舊蹟に富み、四明峰の東北側には延暦寺及び是に屬する天臺の諸寺院、塔堂等頗る多く、東方の山麓には官幣大社日枝神社及び園城寺がある。延元元年、後醍醐天皇この地に御遷行あらせられ、元龜二年九月には織田信長伽藍を焼き僧徒を鏖にした。寫眞は同山中東塔に於ける雨中蔦もみぢの美觀である。（黒川翠山寫）

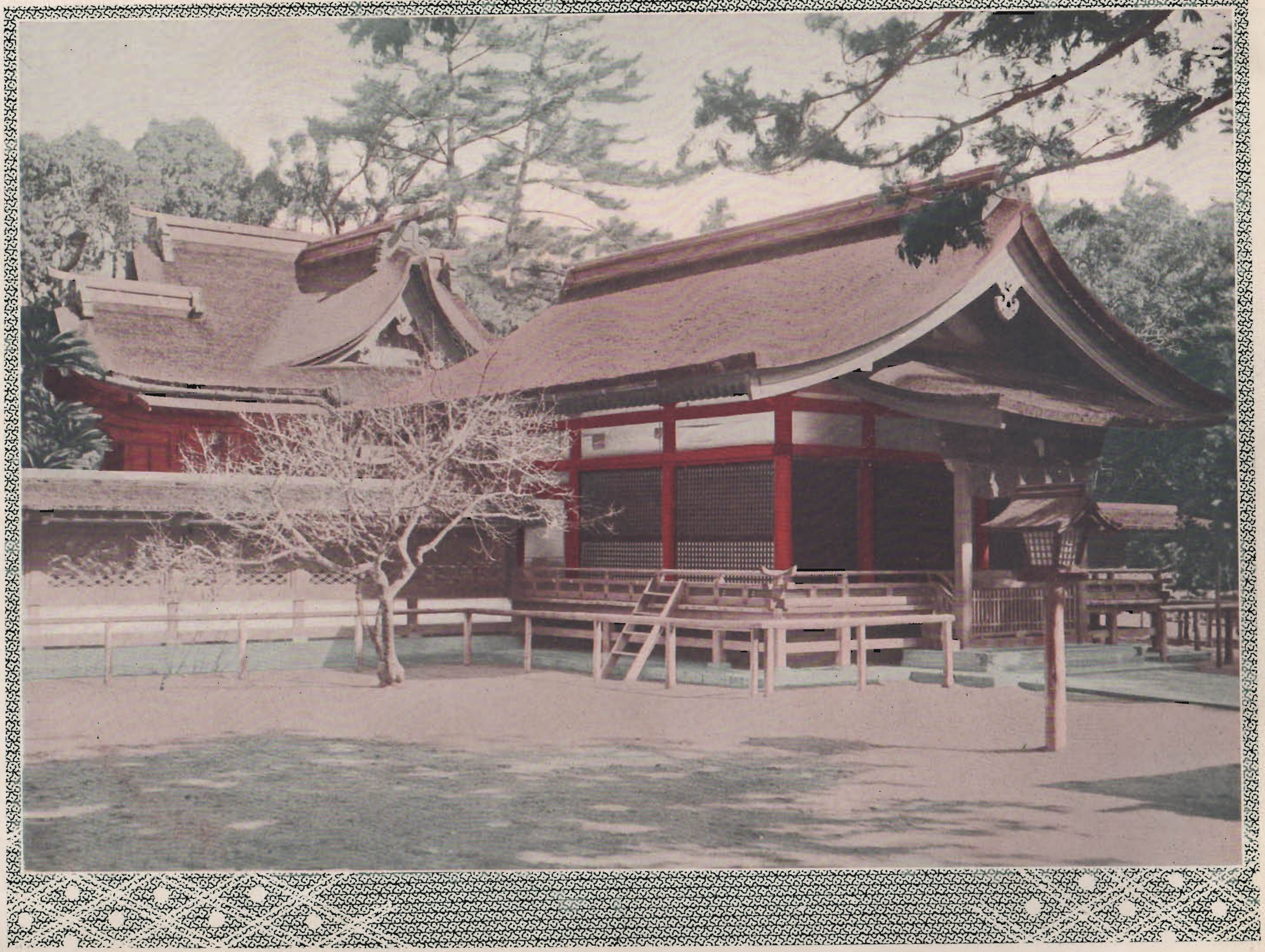
◆◆◆帝國海軍の偉容◆◆◆ 戰艦『伊勢』



戰艦『伊勢』は大正四年五月、神戸川崎造船所に於て起工せられ同五年十一月進水、翌六年十二月、總工費約三千萬圓を以て竣工を告げたのである。垂線間の長さ百九十五米〇七、最大幅二十八米六五、平均吃水八米七四で、排水量は常備三萬一千二百六十噸、速力二十三節、主砲は三十六**サンチ**砲卽ち十四吋砲十二門を備へ、他に十四**サンチ**砲卽ち五吋半砲二十門、八**サンチ**高角砲四門、魚形水雷發射管六門を裝備してゐる。十四吋砲は『陸奥』『長門』の十六吋砲に比し劣勢ではあるが、而も尙その射程は約七里に上り、總量百七十五貫、一發の經費二千圓と稱せられてゐる。『伊勢』の常時乘員は千三百六十名で、その一日の食量は白米十二俵、白麥四俵、一日の經費は約二千五百圓、航海中はその倍額に上るのである。寫眞は檣樓其他に改裝を施されたる『伊勢』の雄姿である。


十二ヶ月のうち
朧月
豊国画

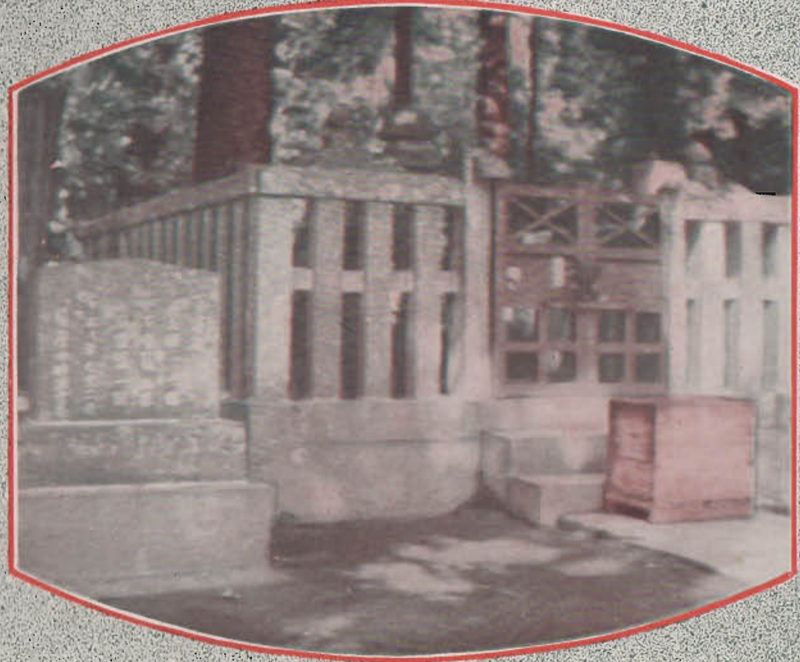
香椎宮は福岡縣糟屋郡香椎村に鎭座する官幣大社で、神龜元年第四十五代聖武天皇の創建し給ふところと傳へられてゐる。歴代皇室の尊崇殊に厚く、國家有事の都度幣を奉り祈禱せしめられた。第七十二代白河天皇の承曆元年、此の宮炎上の際には朝廷に於て五日の間、廢朝仰せ出されたのに徴しても如何にその崇敬深かつたかが窺ひ知られる。祭神は元來神功皇后御一體であつたが、大正十四年仲哀天皇を増祀した。社地は三韓征伐の際、行在所を置かれたところで、本殿の後ろ奧まつたところに古宮と稱する小祠があり、仲哀天皇の行在址と言ひ傳へられてゐる。天皇は熊襲を討たんとし筑紫に幸し、病を得て此地に崩ぜられたのである。社殿はいはゆる香椎造りで、朱塗の樓門と共に結構壯麗、境内に繁る老樹の間に嚴かに聳えてゐる。（香椎宮社務所御寄贈）







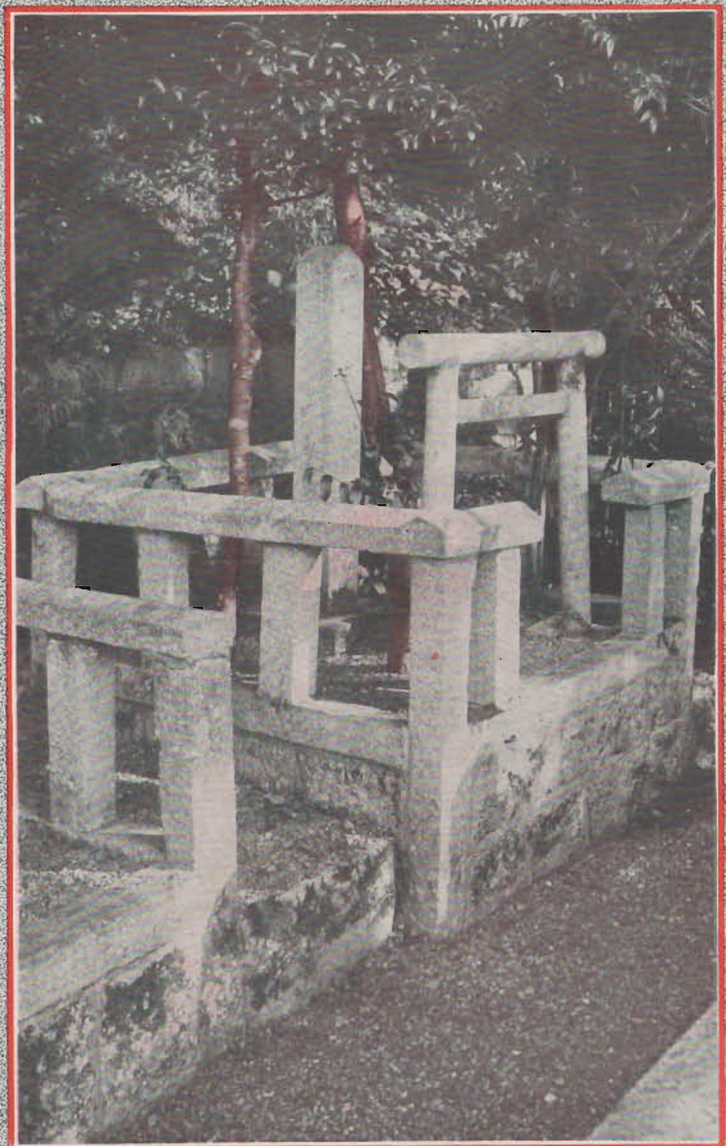




源頼朝は義朝の第三子で、母は熱田の大宮司藤原季範の女由良の郷、名古屋に生れた。年僅かに十三にして父義朝と共に平治の亂に臨み、敵兵二人を斃し一人を傷つけ天晴れ初陣の功を立てたが、戰ひ敗れて父は殺され、頼朝も亦既に首を刎ねられんとするところを平清盛の義母池禪尼がその亡子に酷似してゐるといふので、強ひて生命乞ひをなしたる爲め助けられ伊豆の蛭ヶ小島に流された。頼朝その地に於て豪族北條時政に身を寄せその女政子を娶り、三十四歳の時、時政と謀つて平氏討伐の兵を擧げたが、石橋山の戰ひ敗れて安房に奔り、更に大兵を募つて再び平氏と戰ひ、弟範頼、義經等連戰連勝、遂に平氏を西海の藻屑と化せしむるや、建久三年頼朝は征夷大將軍に任ぜられ天下の實權を悉くその掌中に收めて幕府を鎌倉に開き、玆に前後六百七十年に亘る我朝の武家政治を創始するに至つた。頼朝素より稀に見るの英傑、深謀熟慮よく人を用ひたがその性猜忌深く、範朝、義經を始め多くの骨肉功臣を殺し、爲めに自ら源家の滅亡を早むるに至つた。正治元年一月、五十三歳にして薨じた。

寫眞の右上は頼朝が創建したる鎌倉鶴ヶ岡八幡宮。同下は鎌倉に於ける頼朝の墓。左上は名古屋市誓願寺に在る頼朝誕生地蹟。同下は富士の卷狩の際、頼朝がその馬を繫いだといふ靜岡縣富士郡白糸村狩宿の駒止の櫻である。

京洛趣味めぐり ◆◆◆ 幕末の遺跡（其十二）

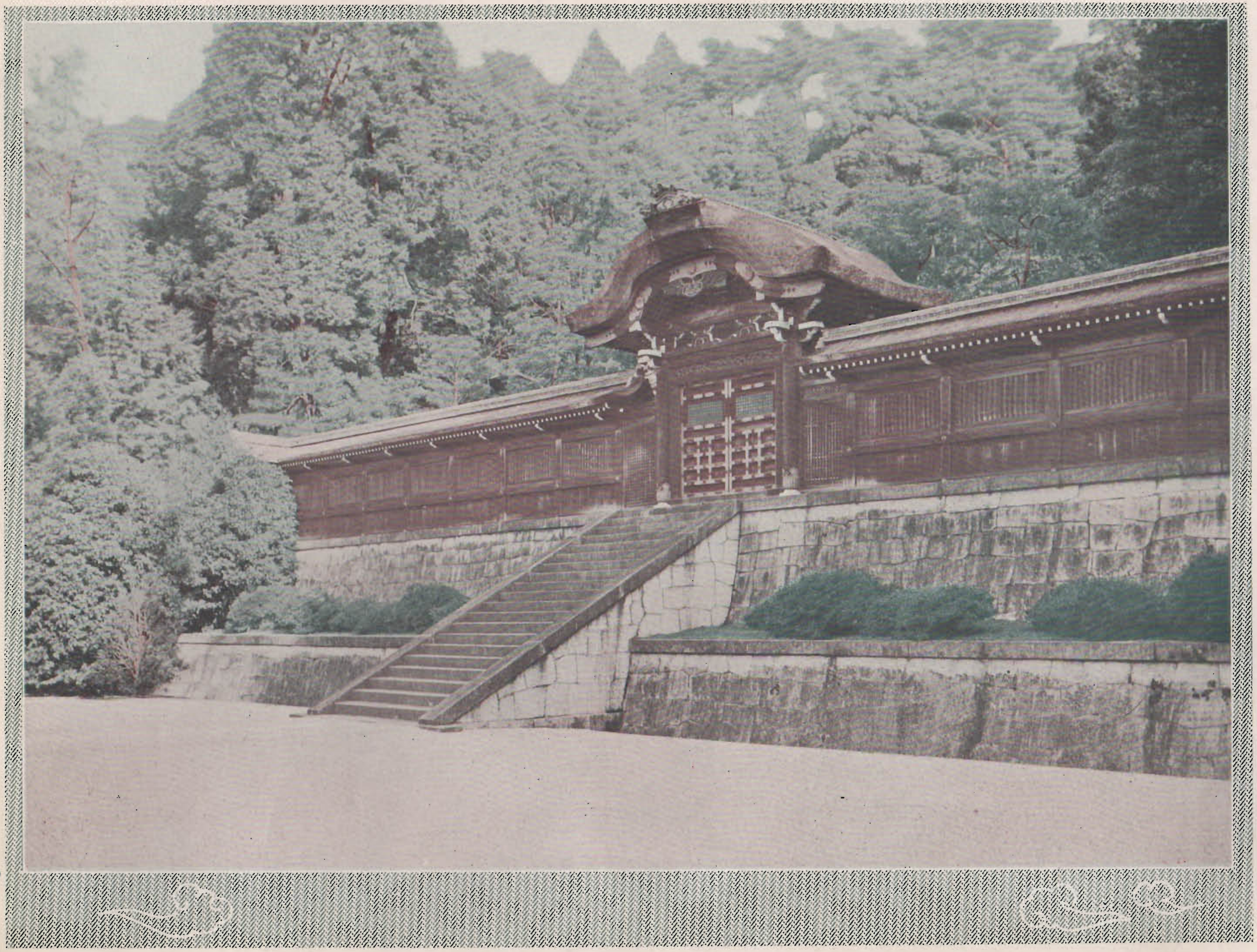






一年連載の『京洛趣味めぐり』も愈々是を大詰として、幕末、京洛に於ける回天動地の遺跡を御紹介に及ぶ。左は維新の先驅大和五條に反幕の旗を飜した天誅組の首領吉村寅太郎の墓で、洛東靈山の勤王志子の墓石の最初のもの、私の外祖父、淡海槐堂が友人吉村の爲めに創建せるところ。右上は綾小路坊城の新選組の壬生浪士の屯所、近藤勇もこの家に住んでゐたことがあり、外廓は依然として昔のままなのが貴い。同下は御所の蛤御門、蛤御門の戰は長州が會津桑名藩兵と鎬を削つて戰ひし凄惨の遺物。今も門柱に砲丸の痕跡歴然として、そぞろに懦夫をして起たしめんとする。京洛の各區は以上本年一ヶ年紹介した丈けでは僅かに九牛の一毛に過ぎないが、又改めて掲載することとし、來年は筆者專賣の『趣味の歷史風俗十二種』を掲げる。相變らず御鑑賞を乞ふ。（風俗研究所長　江馬務）

◆◆◆ 御歴代山陵眞景 ◆◆◆ （其一一四） 第百十五代櫻町天皇月輪陵

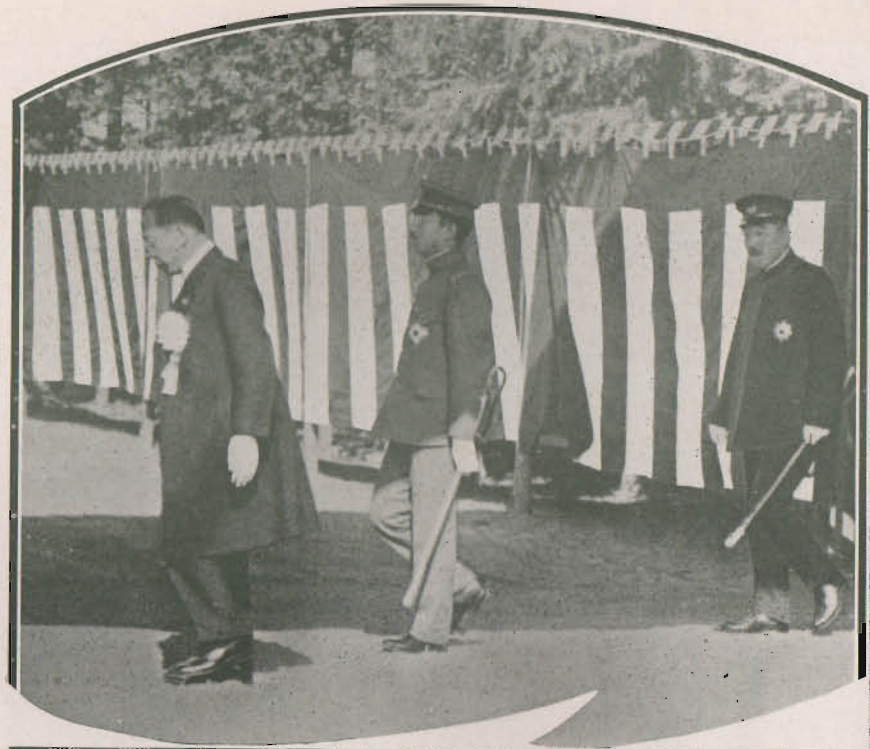


第百十五代櫻町天皇は第百十四代中御門天皇の第一皇子に亘らせられ、御母は新中和門院尚子と申す。天皇は享保五年正月朔日の御降誕、御諱は昭仁と申し、初め若宮と稱し奉つた。享保十三年東宮に入りて皇太子とならせ給ひ、同二十年十一月三日紫宸殿に於て卽位の大典を擧げさせ給ふ。時に御年十六に亘らせられた。延享四年五月、御位を皇太子に讓らせ給ふ、御在位十二年である。改元するもの三たび、元文、寛保、延享と稱した。寛延三年四月二十三日、櫻町の仙洞御所に於て崩御あらせられた。時に御壽三十一歳、月輪陵に葬り奉る。天皇、天資聰明、平生祖宗を敬せられ、宮中諸儀の未だ備はらざるものは悉く是を古式に復せしめられた。又古歌を能くせられ、氣韻高尙、毫も浮弱の晉なく讀むものをして儼然敬を起さしめた。御祭日は五月二十八日である。（宮内省御許可）

兩內親王殿下の上野動物園御成



照宮、孝宮兩內親王殿下には小春日和の十一月四日、上野公園の動物園に御成りあり、小半日を御興深くお過し遊ばされた。此日、照宮殿下には純白の御洋裝を召され、孝宮殿下には緋の御和服にて黒田皇太后事務官、伊知地、小倉兩女官等が御供申上げ、午前八時四十分宮城御出門、自動車に召されて動物園に御着、此處にて御待受け申上げた照宮様の御學友女子學習院幼稚園の園兒二十名と御一緒に、石橋保健局長、井下公園課長等の御案內で園內各種の動物を御覧になり、黒川園長の御說明で可愛い熊や**オツトセー**などの無邪氣な動作に興がらせられ、十一時過ぎ御歸還あらせられた。寫眞は當日水族室前に於て拜寫したる兩殿下である。



高師創立六十年記念式行幸の聖上陛下



聖上陛下の新警視廳行幸



東京科學博物館御見學の兩陛下

雲上の御消息

（前頁右）豫て自然科學の御造詣深く渡らせらるゝ聖上陛下には十一月二日皇后陛下とお揃ひにて上野公園に新裝成れる東京科學博物館に御成り遊ばされ自然科學者としての御立場から極めて御研究的に御見學あらせられた。寫眞は同館內にて拜寫し奉りたるもの（同左上）明治六年創立せられ六十年間に七千二百名の卒業生を出したる東京小石川窪町なる東京高等師範學校に於ては十月三十日聖上陛下の行幸を仰ぎ榮えある創立六十年記念式を擧行した。寫眞は陛下の高師行幸で御先導は大瀨校長。（同下）十月二十日聖上陛下には櫻田門外の新警視廳に行幸仰せ出され一



皇后陛下の帝展行啓



北白川宮永久王殿下の騎兵少尉御任官

時間餘に亙り廳内を隈なく御巡覽あらせられた。寫眞は當日二重橋前に於て七千餘の警官達、恭しく聖姿を拜しつゝある光景。（後頁右）秋晴れの十月十五日、皇后陛下には折柄開會中の帝國美術院展覽會に行啓あらせられ各部の諸作品を御熱心に御巡覽あり夕刻御機嫌麗はしく御歸還あらせられた。寫眞は美術館正面階段にて拜寫。（**中央**）本年四月陸軍士官學校を御卒業、近衞野砲兵聯隊御勤務中の北白川永久王殿下には今回陸軍砲兵少尉に御任官あらせられた。（**同左**）陸軍騎兵少尉李鍵公殿下（御年二十三歲）と廣橋誠子孃（二十）との御結婚式は十月五日澁谷常盤松の同家に於ていとも目出度擧行せられた。寫眞は當日式後公家に於て陸軍正裝の殿下と長々と裳を曳いた**ピンク**色の**ウエツテイング・ドレス**の御姿﨟たき新妃殿下である



李鍵公殿下の御結婚式



兩軍選手入場式

米國野球團の來朝

讀賣新聞社の招聘にかゝる米國職業野球團の一行は、孰れも大リーグのスター選手を網羅した名實共に世界最強を誇る選抜チームで、十月二十九日横濱入港の龍田丸で來朝、翌三十日より練習を開始したが、一行中の第一投手グローヴ氏は世界一の投手と推稱せらるる人、又ゲーリッグ・シモンズの二氏は打撃王と呼ばれ就中ゲーリッグ氏は彼の有名なるベーブ・ルース氏と毎年本壘打數を爭ひつゝある最強打者、其他投手フレンチ氏、遊撃手モランビル氏、捕手カクレン氏等孰れも米國球界の第一人者である。かくて我がチームとの試合は十一月七日對立教戰を第一回として擧行せられ、對立教は七A——○、對早大は八A——五、對明大は四A——○にて米軍勝ち、日本選抜チームとの試合は此稿〆切までには開始せらるるに至らなかつた。寫眞は上段右は日米兩軍選手入場式。同左對立教戰の一シーン。下段はグローヴ投手の雄姿。同左本壘打王ゲーリッグ氏である。



對立教戰第六回立教方中島君の一壘アウト（審判宮武氏）



世界一の名投手グローヴ氏



本壘打王ゲーリッグ氏

早慶戰と、立教の優勝



早大應援團の決死的いでたち

東都六大學リーグ野球戰中、白熱的興味を喫る早慶戰はいよ〳〵十月十七日その第一回戰を神宮球場に於て開催したが、觀衆無慮五萬、早大方は伊達投手を、慶大方は上野投手を夫々プレートに送り細雨を衝いて對戰三回に入るや降雨甚だしく遂にノーゲーム宣せられ翌十八日再開、第一回戰は二對一にて早大勝ち、第二回戰は二A對一にて慶大方復讐し、二十一日の決勝戰は暗雲低迷する中に、兩軍必勝を期して、戰ひ、早大方最初より優勢にして數點をリードする內、又もや降雨に襲はれ、一時試合を中止するに至つたが、夕闇の裡に再び戰ひは續行せられ遂に十對二のスコアを以て早大軍大勝を博した。而して今シーズンの優勝チームは立教大學と確定し、同チームは雌伏十年遂に此の榮冠を獲得したのである。寫眞上段は早慶決勝戰に於ける早大應援團の白鉢巻、白襷隊。下段右早大軍の殊勳者伊達投手。同中、早慶第一回戰當日雨中の觀戰。同左今秋リーグ戰の優勝者たる立教チームである



優勝者立教チーム

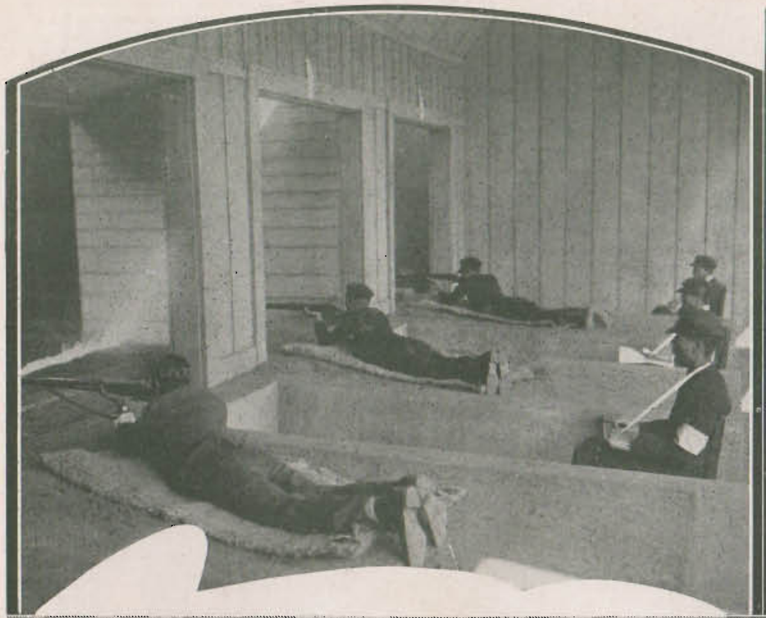


雨中觀戰の珍風景



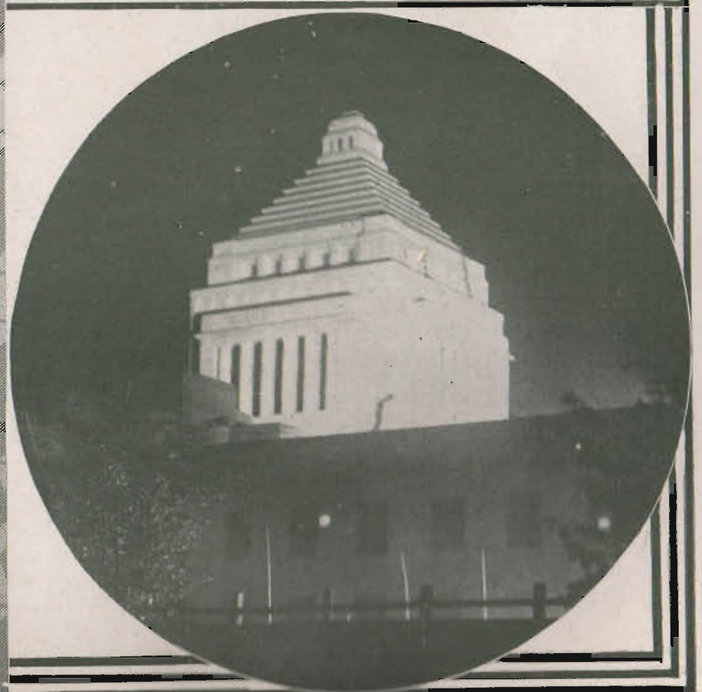
殊勳の伊達投手

最近時事小景







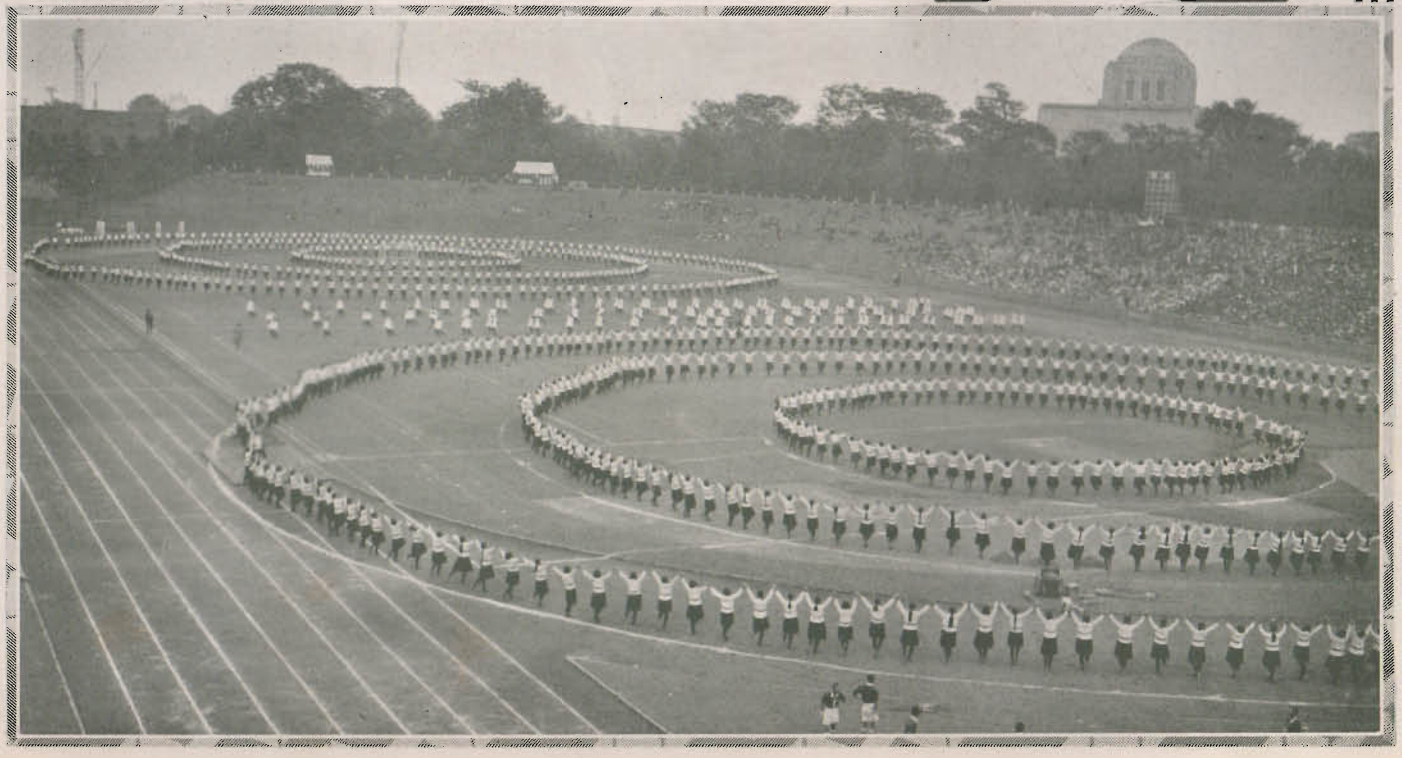


（右上）日露戰爭が生んだ出征美談として知られてゐる『一太郎やあい』の主人公香川縣三豐田村の岡田かめ女とその息子の一太郎事梶太郎の母子は各方面から寄せられた同情に對し感謝の意を表する爲め十一月一日入京、二日には宮城を拜し市内見物に廻つた。寫眞は宮城を奉拜したる岡田母子である。（同下）今後祝祭日や議會開會期間には照明することゝなつた新議事堂の中央高塔の試照を十一月四日の夜に行つたが、秋の夜の中空に水晶宮の如く浮き出した美觀は正に帝都の誇りの一つといふべきであつた。（左上）射擊大會の第一日は十一月二日陸軍大久保射擊場に於て行はれた。寫眞は選手等今や射擊競技中の光景。（同下）滿洲事變勃發以來全國民は悉く時局の推移を凝視しつゝあるが、今回菊地、貴志、高山各陸軍中將、森山海軍中將の四氏が發起人となり、陸海軍の在鄕將官約五百名を呼合し、十月三十一日午後三時から九段靖國神社の神前に於て國難打開の大祈願を催した。寫眞は當日の參會者達社前に禮拜退下しつゝあるところである。

••• 最近時事小景 •••



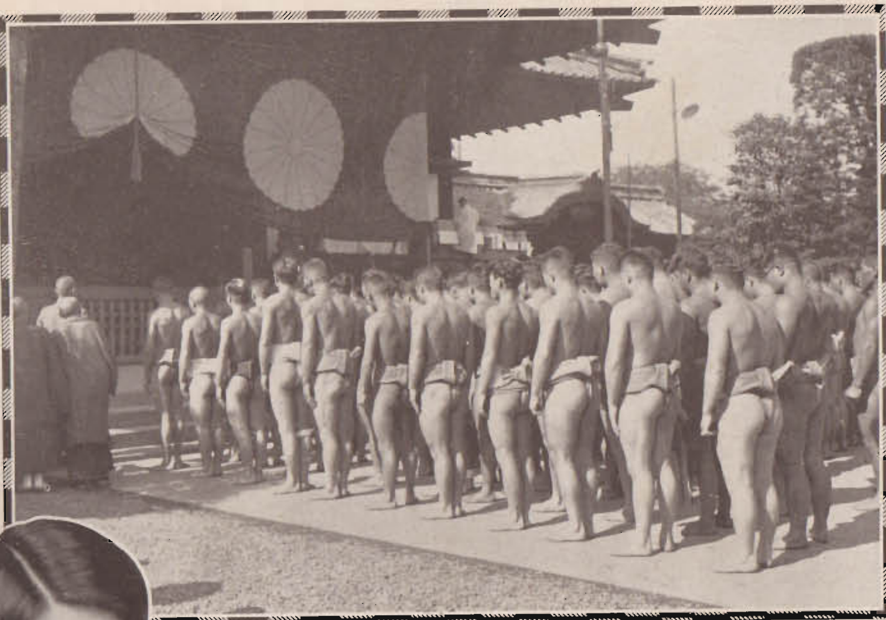






（右上）十月九日より同十九日まで十一日間大阪に於て開催せられたる大相撲關西本場所に、十勝一敗の成績を以て優勝し攝政盃を授與された綾櫻關。（中上）安達内相夫人は全國警察官家庭婦人協會長として十一月一日正午より内相官邸に警視廳管下の同會員婦人約百名とその子供達を招待し秋晴れの一日を樂しく慰安させた。寫眞は可愛い子供達に取卷かれた安達内相夫妻。（下）十月二十七日より開始せられた第六回神宮競技は幾多の新記録を出して十一月三日目出度く終了した。寫眞は第五日目の呼物、東京女高師生徒の國民保健行進遊技。（左）明治神宮競技一般五種競技に日本新記録を出して優勝したる早大の住吉耕作君である。

最近時事小景









（右上）大阪市が御大典記念として巨萬の費用を投じ建築に從事しつつあつた豐太閤の覇業を偲ばせる大天守閣は愈々竣工し、十一月七日盛大なる落成式を擧行した。同天守閣は三百四十八年前豐公創建當時の形式に據れるもの、外觀五層内部の層階は八重。石垣共合せて百七十四尺、南北二十間、東西十八間といふ海内無雙のもので、全部鐵筋**コンクリート**、二階の大廣間は三百六十坪である。（**左上**）鎭座六十年を迎ふる九段靖國神社秋季大例祭は十月二十二日より三日間盛大に行はれ、二十三日には勅使の下向に續いて各皇族殿下及び軍隊の參拜等があり非常な賑ひを呈した。寫眞は同日素人奉納相撲選手一同參拜の光景である。（**右下**）上野公園竹の臺に新築工事中であつた東京科學博物館は十月下旬漸く竣工を告げ十一月二日には畏くも自然科學に御造詣深き　聖上陛下及び皇后陛下の行幸啓を仰いだ。寫眞は即ち同博物館。（**左下**）北米に咲いた若い天才**ヴアイオリニスト**の**アリス**片山孃日本名恒子さんはその**パートナー**たる**ピアニスト**の姉さん**リリアン**日本名の淑子さんと共に最近歸朝した。我が樂壇に一光彩を添へることとなつた。恒子さんは十一歳の頃から**ヴアイオリン**を手にして忽ちその天才を發揮し全米に名聲を博するに至つた。寫眞左が恒子さん。右は淑子さんである。

屋上庭園

●滿洲事變特輯號として出された十一月號は好箇の記念品として後世に傳へるに足るものだ。其の材料の蒐集に一段の努力を拂はれ、而も迅速に發行された點は又實に嬉しい。然し三色版も二色版も**グラビヤ**版も單色版も唯だ殺伐な興味を單一化された點は止むを得ないものがあつた。が、主要連載物を始め時事小景の數頁は能く是を緩和した。但し其の配列に就て一言申上げたい。卽ち特輯物全部單色版までを卷頭に並べて別冊の形とし、連載物は矢張り（**其十一**）と番號をつけ、其他時事ものと共に卷尾に組入れられたならば、一層妙味があつたと思ふ。尙一つ表紙題號の滿洲の洲に扁がなかつたのは目障りだつた。

（**名古屋　敬補生**）

▲（**編者**）　事變に關する特輯寫眞のみを卷頭に並べ連載物及び時事物を卷尾に置くことは、最初に私も考へたことですが、或る事情に妨げられてさうすることが出來ませんでした。滿洲の洲に扁を落したのは校正刷が遲く出て訂正する時間の餘裕がなかつた爲めです。是は大きな失態で、自分でも不快に思つてゐるところです。

●貴會の彌々御發展をお欣び申上げます。さて時局重大なるの秋、今回御發行下さいました『滿洲事變特輯號』は眞に時機に適した絕好の記念として永久保存するに誠に有意義なるを思ひ、厚く感謝いたすものであります。尙第二卷第三卷の御計畫は實に結構、場合に依りては臨時號として是非共逐次御發行あらんことを切望いたす次第で御座います。又今回所載の寫眞も非常に嬉しく各新聞紙掲載のものよりも異つた狀況の寫眞が多數掲げられたことは愉快でした。次號を待ちます。（**京都　喜國子**）

▲（**編者**）　有難う存じます。

●**グツ**と來た第一印象、十一月號の表紙を思はず握りしめました。內容は先づ三色版の美味滿喫、**ニユース**も精選されてゐたが、二色版は兵士の服が變な色をしてゐるでも是は早急の際で忙しかつただらうからかんべんして上げます。兎に角、妙な浮世繪や**ゲイシヤ・ガール**が消し飛んだ本號は實にがつちりしてゐる。果然編輯子は遊治郎でなかつたんだ。——私の最も氣に入つた十一月號だけは重箱の隅を揚子でほじくらないことにします。

（**群馬　新しい讀者**）

▲（**編者**）　氣の利いた筆つきが先づ嬉しい。編者を遊治郎と思つてゐたとしても、思はないことにしたとしても、そんなことはどうでも好い。先月號の愛媛の小倉生氏のやうに『女の寫眞を見たばかりでよだれが流れる』といふやうな讀者も考慮に入れておかればならない編者としては、あなたの御希望のやうながつちりした材料ばかり選んでをれない事情もあるのです。お察し下さい。

●十一月特輯號は近來の快擧だつた。表紙裏に揭げられた發刊の辭を讀んで筆者の高邁な識見と廣い大きな心とに打たれた。揭載の寫眞にも二三素晴しいものがあつた。永久に殘さるべき記念品として尊重する。自分は歷史寫眞の愛讀者であることの幸福を今更に痛感した。

（**本鄕　鈍牛**）

▲（**編者**）　難有う御座います。

●編輯者の御努力に依て歷史寫眞の內容の逐次充實してゆくのは無上の喜びなり。九月號の『滿蒙大觀』十月號の『獨逸を覗く』の兩者は是を對照して興味があると共に、其の國狀を知る意味に於て更

いと思ひます。

に世界各國の國狀を御連載願へれば幸ひなり。今秋開催の帝展の如きも其の作品を後世に傳ふる爲め臨時增刊として御出版の御意嚮はなきものなるにや、敢てお伺ひ申上げます。

（**上毛　福島八郎**）

▲（**編者**）　帝展の作品は每年數ページを割いてその代表的作品を揭げることにしてなります。本誌としては是れ以上のことは出來兼ねます。然るに本號は滿洲事變特輯寫眞の爲め、例年ほど澤山に帝展作品を發表することが出來ませんでした。お宥し下さい。

●歷史寫眞十月號萬歲。表紙內容共に夏頃とは格段の出來榮えです。特に私が希望し注意してゐる方面では殆ど完全に充實してなりました。もとより自分の力に覺えのある編輯氏が本氣になつてやればこんなにまで凄い腕前を發揮することが出來るのです。私は本誌に揭載された寫眞が唯だの一葉と雖も他の雜誌に出る物に比して劣つてゐやうとは思ひません。特に本誌一流の編輯と技術とは獨り本誌の愛讀者のみが味ひ得る誇りであります。次號『滿洲事變號』を期待して**ペン**を措きます。

（**上州　新愛讀者**）

▲（**編者**）　あまり褒められて少々擽つたいやうです。それにつけても一層勉强し努力しなければならないと思ひます。

●本年度の連載物は孰れも成功であつたけれども中止や休載の多かつたのは甚だ遺憾であつた。編者に有終の美を自信するだけの**プラン**がなかつたものかと疑はれる。來年の表紙繪は美人畫をやめて季節風景又は花鳥をものして頂きたい。**グラビヤ**特輯版は每月連載し各府縣別の風物を紹介して立派な教育的參考資料とし、尙隣邦支那の狀景など盛に揭載して頂く必要がある。從來本誌として行詰つてゐる點を打開し大に淸新の意氣を示されんことを要求します。

（**愛媛　渡邊洋月**）

▲（**編者**）　いろ〳〵の御忠言を心から感謝いたします。

世界日誌

自昭和六年十月六日
至昭和六年十一月五日

◇十月◇

（六日） 滿洲鐵嶺、開原東方各地に於て支那の官兵等朝鮮人を捉へ鬼畜も敢てせぬ虐殺を行ひ殘忍の狀實に尼港事件をも凌ぐものありとの報あり。

（七日） 獨逸の**ブリューニング**内閣は本日午前十一時總辭職をなし、同國大統領**ヒンデンブルグ**元帥は嚴重なる獨裁政治を樹立する爲め國家緊急令を發布したり。

（八日） 張學良を首班とする錦州軍憲の我に對する敵對行爲明瞭となりたる爲め我偵察飛行隊今朝同地方面偵察中、支那軍は地上より猛射を浴せたるに依り、我飛行隊は更に錦州上空に到り、支那兵營を目がけ爆擊を加へ相當の損害を與へたり。

（九日） 昨八日の錦州爆擊以來**ジュネーヴ**に於ける國際聯盟は支那の宣傳に動かされ事態再び急轉直下の傾向を示し來り、我國に取つて極めて不利の狀態を招來するものゝ如く觀測せらる

（十日）アメリカに於ける今年度**ワールド・シリーズ**の大野球戰は**セントルイス、カージナル**兩軍三勝三敗の後を受け本日**セントルイス**球場に於て決勝戰を開催したる結果、**カ**軍奮闘、遂に四A—二にて優勝す。因に七回を通じての總收入は百萬弗を突破したりと報ぜらる。

（十一日） 去る五月羽田國際飛行場を出發、歐洲諸國へ親善の握手を求めて飛行したる法政大學經濟學部二年生栗村盛孝、同大學航空囑託熊川良太郎の兩氏、鵬程一萬一千**キロ**の記錄を完成し、本日午後四時五十五分東京驛着富士號にて歸京す。

（十二日） 本日、聖上陛下には宮城吹上御苑内の水田六十餘坪に豐熟したる信州早稻、愛國、選一などの御稻刈を遊ばさるゝこととなり、御運動服にて鎌を御手に水田に降り立たせられ各種數株づゝを御刈取り遊ばされたり。

（十三日） 支那國民政府首席蔣介石氏は今回の日支紛爭に關し**アメリカ**を抱き込み、自國の爲め事態を有利に轉換せしめんが爲め必死の努力を盡しつつありと報ぜらる。

（十四日） 國際聯盟理事會議員**ブリアン**氏は本日その宿舍に日支兩國代表を除く聯盟各國理事を招き私的會議を開催したる席上滿洲事變に關する理事會議に米國代表を出席せしむるの件を提議し、全員異議なく是を可決したり。

（十五日） 過般南嶺の激戰に於て名譽の戰死を遂げたる倉本茂少佐の聯隊葬は本日午後三時より麻布第三聯隊營庭に於ていと盛大に擧行せられたり。

（十六日） 本日の聯盟理事會に於て**ブリアン**議長は日本の法理的反對を斥け**アメリカ**に對し**オブザーヴア**として理事會に出席すべき招待狀を發送するに決したり。

（十七日） 六大學**リーグ**戰中の白眉たる早慶野球第一回戰は本日午後二時半より神宮球場に於て擧行せられ觀覽者無慮五萬に上りたるが、戰ひの初期より降雨あり、第三回の裏に於て雨いよ〳〵激しく遂に**ノーゲーム**宣せらる。

（十八日） 發明王にして人類の親と呼ばるゝ**アメリカ**の**トーマス・エヂソン**翁は豫て腎臟病に罹り療養中のところ遂に本日午前三時二十四分死去す。享年八十四歳なり。

（十九日） 我國最初の實彈爆擊演習は本日早朝より三方ヶ原の濱松飛行第七聯隊爆擊場に於て開始せられ、新爆彈の威力を遺憾なく發揮し所期以上の好成績を收めたり。尙右實彈演習は二十七日まで續行せらるゝ筈なり。

（二十日） 天皇陛下には今回櫻田門外に新築落成したる警視廳を御視察あらせらるべく午前十時宮城御出門、二重橋前より新廳舍前に亘り八千の警官が堵列奉迎する中を無蓋の御馬車にて進御あり、約一時間に亙り廳内を御巡覽あり、御機嫌ぱしく還幸あらせられたり。

（廿一日） 一勝一敗の後を受けたる早慶野球決勝戰は本日神宮球場に於て開催せられたるが、折柄又も降雨あり、兩軍雨中の接戰凄じく遂に十對二にて凱歌は早大方に揚りたり。

（廿二日） 聯盟理事會公開會議に於て、理事會は日本政府に對し十一月十六日まで日本軍の撤退を要請すべしとの決議案を作成し、是を同理事會に提出したり。

（廿三日） 朝鮮人側の調査に依れば今回の事變に際し、支那兵又は馬賊の爲めに虐殺せられたる朝鮮人の數千九百名に達し行方不明の者四千五百名に上ると傳へらる。

（廿四日）アメリカ暗黑界の大立物で犯罪王と呼ばるゝ**カポネ**の裁判確定し、本日判事**ウイルカーソン**氏は同人に對し禁錮十一ヶ年、罰金五萬弗の刑に處する旨宣告したり。

（廿五日）ワシントン訪問中の佛國首相**ラヴアル**氏は米國大統領と會見の結果、本日金本位制維持に關し米佛兩國の共同聲明書を發表したり。

（廿六日） 本日午後十一時三十二分東京麹町區有樂町電氣局長室附近より發火、その大半を燒失す。損害二十五萬圓、原因は放火の疑ひあり。

（廿七日） 第六回明治神宮競技は本日より神宮外苑に於て開催せらる。是に參加する全國の若者九千、その意氣高きこと正に秋天の如し。

（廿八日）イギリスに於ける總選擧開票の結果勞働黨慘敗し、政府黨大勝を博す。

（廿九日） 張學良氏は本日午後一時北平より飛行機に搭じて南京に到着し、直ちに蔣介石氏をその私邸に訪問、滿洲事變の對策に關し協議を重ねたり。

（三十日） 元鐵道大臣、前滿鐵總裁工學博士仙石貢氏は豫て相州片瀨の別莊に於て病氣療養中のところ、本日午後一時二十六分遂に逝去す。享年七十五歳なり。

（卅一日） 時局多難の折柄、聖上陛下には今秋九州の陸軍特別大演習に行幸御取止めの御趣き取沙汰せられたるが、本日宮内當局は是を取消し御豫定通り行幸あらせらるゝ旨關係各縣に對し通告を發したり。

◇十一月◇

（一日） 西園寺公本日入京したるに依り若槻首相は直ちに公をその駿河臺邸に訪ひ時局對策の諒解を求めたり。

（二日） 自然科學に御造詣深き聖上陛下には皇后陛下御同列、最近上野公園に新設せられたる東京科學博物館へ行幸あらせられ、殊の外御感興深く御巡覽遊ばされたり。

（三日） 明治節の佳辰、天氣淸朗にして絕好の行樂和、明治神宮の參拜者五十萬人と稱せられ非常なる賑ひを呈したり。

（四日） 北滿嫩江附近に於て優勢なる黑龍江軍と我守備隊衝突し大激戰の結果、敵を北方に潰走せしめたるも我軍の死傷者二百餘名に上る。

（五日） 皇統實に三千年の久しきに亘ると稱せらるゝ南**アフリカ**神祕の國の**エチオピヤ**の答禮特使、同國外務大臣**ブラセンゲタ・ヘルイ**氏は本日神戸入港の汽船にて來朝す。

歴史寫眞第貳百貳拾參號（毎月一回一日發行）
大正二年十二月一日第三種郵便物認可
昭和六年十一月二十五日印刷納本
昭和六年十二月一日發行

定價送料共一部 金五拾錢
朝鮮、滿洲、樺太、臺灣 同 金六拾錢
其他外國 同 金八拾錢

編輯兼發行
印刷人 東京府下代々幡町笹塚一二三〇 多田鐵雄
印刷所 東京市小石川區久堅町一〇八 共同印刷株式會社
發行所 東京市神田區千代田町二八 歴史寫眞會
（電話神田六五七）（振替東京三四八二九）

本誌取扱所